



# 多摩六都科学館 事業評価報告書

令和2年度～令和5年度（4カ年）の中期計画における  
令和3年度（2021年度）実績報告ならびに事業目標の達成度などに関する評価報告

## 本報告書の構成

多摩六都科学館における事業評価の基本的な考え方	1頁
多摩六都科学館事業評価票	
1. 指定管理者による自己評価ならびに外部評価 —5つの事業目標ごとの評価— ①～⑤	2～12頁
2. 多摩六都科学館組合による自己評価ならびに外部評価	13～17頁
3. 総評 使命ならびに活動理念の評価	18～20頁
参考資料	21～23頁

令和4年（2022年）8月

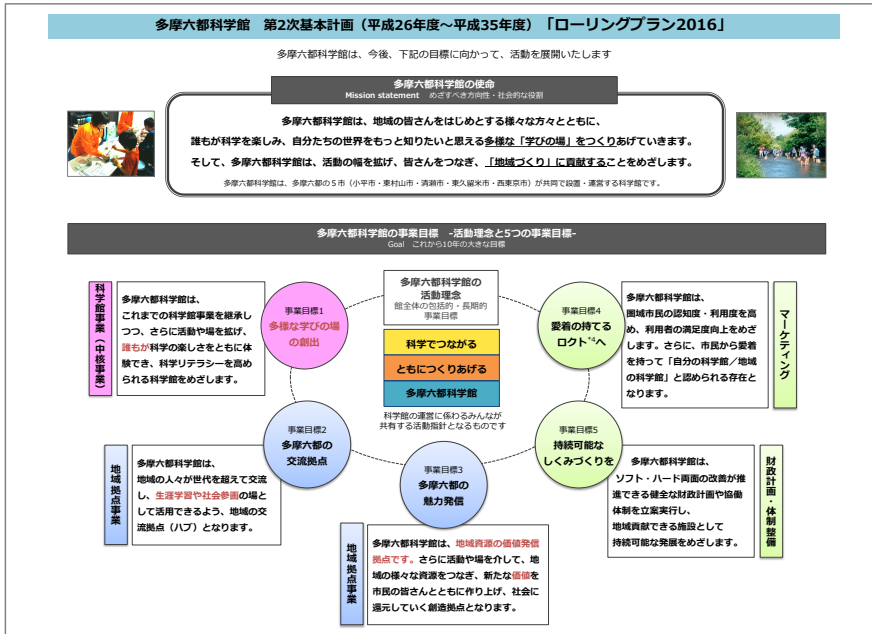
多摩六都科学館組合

指定管理者：株式会社 乃村工藝社

1. 多摩六都科学館における事業評価の意義

多摩六都科学館は、平成25年度（2013年度）に策定した第2次基本計画（平成26年度～令和5年度／2014年度～2023年度）（2017年度からは第2次基本計画の見直し版「ローリングプラン2016」）に基づき、事業評価を実施する。事業評価を導入することによって、基本計画に掲げた使命ならびに事業目標の達成度や事業の取組姿勢・進捗状況が検証可能な中長期的目標管理システムの構築をめざす。

評価結果を事業の修正、翌年度の予算編成や事業計画に反映させ、計画（Plan）－実行（Do）－評価検証（Check）－改善（Action）のPDCAマネジメントサイクルを機能させ、継続的な業務改善・サービスの向上が図られるよう努める。また、評価結果を公表することにより、構成市ならびに圏域市民に対して、公の施設としての社会的説明責任を果たし、公的事業の透明性を図るものとする。



2. 事業評価の進め方

平成26年度は試行として進め、業績指標・検証方法などの検討を行い、本格導入は平成27年度からとする。多摩六都科学館の事業評価は、中期で事業方針を定め、その進捗状況や目標の達成度を経年変化で検証する。第3期は令和2（2020）年度～令和5（2023）年度の4力年とし、中期的事業評価は令和4（2022）年度に実施する。その結果を反映させ、令和5（2023）年度に第3次計画策定を行う。各年度の事業評価は、多摩六都科学館組合と指定管理者が自己評価（1次評価）を行い、さらに事業評価委員会（構成員は科学教育や博物館運営に関わる有識者と圏域の市民）による外部評価（2次評価）を行い、その結果を事業評価報告書としてまとめ、事業報告書とともに構成五市に報告し、情報公開という流れで実施する。

第2次基本計画の期間（H26～R5/2014～2023）										
年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
中期	第1期・3力年			第2期・3力年			第3期・4力年			
	中期的事業評価			中期的事業評価			中期的事業評価			計画策定

3. 事業評価の概要

評価実施者	評価の種別	概要（評価対象ならびに進め方など）
指定管理者	自己評価 1次評価	第2次基本計画に定めた「使命」ならびに「活動理念」「5つの事業目標」に沿って、指定管理者が定めた「事業計画の基本方針」（中期3力年の事業目標）の進捗状況・妥当性・達成度・有効性について、年度毎に自己評価を行う。指定管理期間終了年度には中期における取り組みについて総評を行う。各年度の事業結果の詳細は、「事業報告書」としてとりまとめ、報告・公表する。
多摩六都科学館組合	自己評価 1次評価	第2次基本計画に定めた「使命」ならびに「活動理念」「5つの事業目標」が達成できるよう、計画された「重点戦略」および「中期で重点的に取り組む戦略」のうち、組合が推進すべき取り組みについて、進捗状況・妥当性・達成度・有効性について、年度毎に評価を行う。指定管理期間終了年度には中期における取り組みについて総評を行う。
事業評価委員会	外部評価 2次評価	第2次基本計画に定めた「使命」ならびに「活動理念」「5つの事業目標」に向かって科学館の管理運営を推進できたか、その事業成果について年度毎に外部評価を行う。指定管理期間終了年度には中期における取組について総評を行う。

4. 業績指標の検証方法

多摩六都科学館では、下記方法で業績の検証を行う。数字だけでは実態を把握できない取組姿勢や進捗状況なども定性的に自己評価し、中長期的な目標の達成度を検証できるように試みていく計画である。

類型	検証時期	検証方法	ベンチマークス	調査実施者
A	毎年	結果データを定量的に検証	経年変化を検証	指定管理者
B	毎年・中期	取組内容を定性的に検証	経年変化を検証	指定管理者・組合
C	毎年	利用者を対象にアンケートを実施し、定量的なデータを測定し、検証	経年変化を検証	指定管理者
D	毎年	市民モニターなどを対象にインタビュー調査を実施し、定性的に検証	経年変化を検証	組合（指定管理者協力） H27年度から実施
E	中期の区切りで	圏域市民を対象にアンケートを実施し、定量的なデータを測定し、検証	平成28年度のデータと比較し、変化を検証	組合（指定管理者協力）
F	中期の区切りで	事業評価委員会・市民モニターが取組内容や成果を定性的に検証	平成25年度、28年度の状況と比較し、変化を検証	組合（指定管理者協力）
G	中期の区切りで	設定ターゲットに対して内容や成果を定性的に検証（FGI）	R1に実施、効果を検証	組合（指定管理者協力）
H	中期の区切りで	設定ターゲットに対してアンケートを実施し、定量的に検証	R1に実施、効果を検証	組合（指定管理者協力）

5. 段階評価の基準

自己評価の目標の達成度ならびに外部評価の評定は、段階評価で実施する。

評価	評価内容・基準
A++	優良：目標を超える成果を挙げている。内容が特に優れている。
A+	良好：目標に対し良好な成果を挙げている。内容に優れた点が見られる。
A	適正：計画に則して目標を達成している。内容が適正である。
B	改善：目標が達成できていない点がある。もしくは内容の改善が必要である。
C	見直し：目標がほとんど達成できていない。抜本的な改善が必要である。

1. 事業目標ならびに事業方針

註：事業目標・取組方針内の赤字は、「ローリングプラン2016」で修正された箇所。

第2次基本計画			指定管理者・事業計画
事業領域	事業目標-1	取組方針	令和2（2020）年度～令和5（2023）年度 第3期中期における事業の基本方針
事業計画 科学館事業 (中核事業)	<b>多様な学びの場の創出</b> 多摩六都科学館は、これまでの科学館事業を継承しつつ、さらに活動や場を拡げ、誰もが科学の楽しさをともに体験でき、科学リテラシーを高められる科学館をめざします。	多摩六都科学館の中核事業です。「科学を楽しみながら学べる科学館」「子どもたちの科学する心を育む科学館」像はこれまで通り大切にしつつ、幅広い年齢層も利用できる施設へと徐々に領域を拡げます。多くの方が科学の楽しさに触れ、新たな価値を発見できる科学館像の実現をめざします。	<b>科学の楽しさを実感できる学びの場と機会を創造する。</b> 多摩六都科学館の新10年計画（第2次基本計画）の使命として掲げられた『多様な「学びの場」の創出』と、科学館事業目標である圏域市民の「科学リテラシーを高める」を達成させるためには、2020年からの学習指導要領にもある『主体的・対話的で深い学び』を実現することに重なる。これは「実感を伴う理解の場と機会を提供する」対話的・体験的な事業の実現でのみ可能と考えられます。このため、標本・装置の充実、専門性とエンジョイメントの両立、参加体験でのコミュニケーション(解説計画)のさらなる充実をめざします。また、3密の回避対策としてオンラインでの体験プログラム・講演などを実施し、遠隔での科学館体験の提供を開始し展示室のVR化などさらに高度な事業展開を開始します。

2. 中期の重点戦略ならびに業績指標

註 赤字：新規の指標あるいは「ローリングプラン2016」で改訂された箇所 セル黄色：市民モニター関連

青字：実状に沿うよう指標ならびに測定方法等を見直したものと 評価結果欄の斜め線：調査未あるいは定性評価として実施

重点戦略	事業概要	業績指標	定量	検証方法	中期目標・目標値	第2期		第3期・今中期				中期事業評価				
						H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R1	H28		
● 専門性とエンジョイメントを基本とし見通しを持った体験による実感を伴った理解とコミュニケーションを重視した、探求的で主体的な学びとなる事業を行います。	II-1.科学館事業全体	● 「コミュニケーション重視の体験が充実」と答えた人の割合	*	C	今後、測定予定											
		● 「科学の楽しさを実感した」と答えた人の割合	*	C	今後、測定予定											
		● 科学への興味喚起度（利用者調査・定量的）	*	C	80%以上が満足	89.3%	89.3%	88.7%	92.2%	95.2%						
		● 科学への興味喚起度（市民モニターが検証・定性的）		D		A+	A+	A+	A+	A+						
		● 幅広い年齢層からの支持（削除）	*	C												
		● 常設展示 満足度（館内アンケート）	*	C	80%以上が満足	74.8%	78.6%	76.1%	78.7%	88.3%						
		● 企画展示 満足度（①館内アンケート、②会場アンケート）	*	C	①80%以上が満足	①74.8%	①71.4%	①82.5%	①64.0%	①82.0%						
		● H29より②会場アンケートは満足度ではなく、自由回答から質的評価を実施			②検討/実施	②実施	②実施	②実施		②実施						
		● ①プラネタリウム・②大型映像 満足度（館内アンケート）	*	C	80%以上が満足	①90.1%	①89.6%	①85.7%	①85.7%	①94.6%						
		● 参加体験型学習プログラム 満足度（各プログラムで実施しているアンケート）	*	C	80%以上が満足	②78.3%	②77.9%	②78.4%	②74.8%	②89.1%						
		● H30より満足度ではなく、自由回答から質的評価を実施				99.9%	実施	実施	実施	実施						
		● 学校団体（教員アンケート） 学習投影での児童満足度	*	A	80%以上が満足	81.0%	93.0%	94.0%	92.3%	98.0%						
		● 学校団体（教員アンケート） 展示室見学が役に立ったと答えた割合	*	A	80%以上が満足	85.0%	97.0%	84.0%	87.7%	93.9%						
		● 学校団体（教員アンケート） 学習プログラムでの学習効果が高いと回答した割合	*	A	80%以上が満足	72.0%	83.0%	78.0%	62.5%	66.7%						
		● ソーシャル・インクルージョンに基づき、誰もが分け隔てなく参加して楽しめるよう、子どもだけでなく、高齢者も障がいのある方も、すべての人々がともに楽しみながら学べる場と機会の創造に努めます。		● 「主体的・対話的で深い学び」に対応するプログラムの開発や実施に向けての取り組み		B		実施	実施	実施	評価不能	評価不能				
● ソーシャル・インクルージョンに基づく活動への取り組み				B		実施	実施	実施	実施	実施						
● ソーシャル・インクルージョンに基づく活動への取り組み				D		B	A	A	A	A+						
● リピーターの比率の維持	*			C	★60～70%を維持	58.4%	65.0%	65.5%	65.9%	64.0%						
● ファミリー層の新規利用者の増員をめざした取り組み				B	検討/実施	実施	実施	実施	評価不能	評価不能						
● 展示や教育普及活動がさらに充実するよう、科学館事業の基盤となる収集・保存・調査研究活動の強化を図ります。特に東京の自然史（地域資源）を重要テーマと位置づけます。	II-1-1	● 調査研究活動		B	検討/実施	実施	実施	実施	実施	実施						
		● 標本資料や装置の充実（研究成果の市民への還元）（削除）		B	検討/実施											
● 多様なテーマ（健康・食・芸術など）を科学的なアプローチで探求し、科学に興味のない方も来てみたいと思わせる事業展開を図ります。様々な利用者層に合わせたプログラムで、科学への興味を引き出す場をつくらします。		● 多様なジャンルとのコラボレーション企画開発		B	検討/実施	実施	実施	実施	実施	実施						
		● 地域連携イベントなどの実施		B	検討/実施	実施	実施	実施	実施	実施						
● 館内だけでなく、地域全体にも活動フィールドを拡げ、多くの方が科学の楽しさを体験できるよう、アウトリーチ活動を推進します。特に来館しづらい環境にある学校に対してアウトリーチ活動を行います。	II-1-5 II-2全体	● 圏域五市小学校へのアウトリーチ活動	*	A	各市1校ずつ5校実施	10校	9校	9校	11校	9校						
		● 圏域五市中学校へのアウトリーチ活動	*	A	5市で1校は実施	1校	1校	1校	1校	—						
		● その他の機関などへのアウトリーチ活動		B	検討/実施	実施	実施	実施	実施	実施						
		● ボランティアによるアウトリーチ活動		B	検討/実施	実施	実施	実施	実施	評価不能	評価不能					
		● 業務基準書改訂に向けた検証（削除）		B	検討/実施											
● 市民や機関と連携を図り、圏域内に科学教育の場が広がっていくことも視野に入れて事業展開を図ります。	組合との協働	● 圏域内でのアウトリーチ活動の推進		B	検討/実施	実施	実施	実施	実施	実施						

註★：令和4年6月7日、組合・指定管理者間で協議の上、目標値を「50～60%を維持」から「60～70%を維持」に変更。入館者数の増減があっても実測値が65%を保持し安定していることから目標値を60～70%に改める。

2. 中期の重点戦略ならびに業績指標

注 赤字：新規の指標あるいは「ローリングプラン2016」で改訂された箇所 セル黄色：市民モニター関連

評価結果欄の斜め線：調査未あるいは定性評価として実施

重点戦略	事業概要	業績指標	定量	検証方法	中期目標・目標値	第2期		第3期・今中期				中期事業評価		
						H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R1	H28
						実測値	実測値	実測値	実測値	実測値	実測値	実測値	参考値	
中期の重点戦略	中期的な指標 (主は組合・指定管理者協力)	「誰もが科学を楽しめる科学館」としての評価(定量)(削除)	*	E									5.49	
		圏域市民の科学リテラシーの向上(科学への興味喚起度)(定量)											4.99	
		指標：生活の中で役立つ科学の知識が身につく、世界の課題を科学的な観点から考えることができる科学館	*	E										
		圏域市民の科学リテラシーの向上(科学への興味喚起度)		F					A				A	A+
		科学の担い手の育成(定性)		F					A+				A+	A+
		継続的なユーザーの評価		G										
		「科学館での体験を通して、考え方や生き方に変化が生まれたか」そのような事業を行っているか(定性)		F				A+				A+		
ひとりで展示を見るだけでなく、その場に参加した人たちで、ともに作りあげていくプログラムへと転換を図ります。	II-1全体	参加体験型の学習活動の拡充(削除)		B	検討/実施									

平均値：4.94

3. 評価結果・指標の実績結果

4. 評価結果(定性評価)

中期	年度	自己評価			外部評価	
		今年度の取組結果・成果	課題・今後の取組方針	目標の達成状況	評価	総評(総合的な意見など)
第2期 H29 ~R1	H29	評価コメントは、令和元(2019)年度事業評価報告書参照。	評価コメントは、令和元(2019)年度事業評価報告書参照。	A	A	評価コメントは、令和元(2019)年度事業評価報告書参照。
	H30	同上	同上	A+	A+	同上
	R1	同上	同上	A	A	同上
	中期	同上	同上	A+	A	同上
第3期 R2~ R5	R2	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度からの新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館により、中止となった春の企画展「ロクト運動サイエンスパーク」を、会場に入る人数を少数の定員制とするなどの感染防止策を徹底し、夏の企画展として開催した。</li> <li>春の企画展は、従来集客のため体験性を主体とした企画展を実施してきたが、今年度は専門性を重視し、展示や解説を主体とした「都道府県の石」をテーマとして開催した。</li> <li>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当館の特徴である対話・体験型でのワークショップの実施が危ぶまれたが、定員の縮小や飛沫防止の徹底、開催場所の換気などの対策を十分に施し、開催に漕ぎつけた。</li> <li>現時点で館内での感染は発生していない。</li> <li>今年度は4,5月の休館中や、6月の開館以降も新型コロナウイルス感染拡大防止のための外出自粛を求められ、当館でもプラネタリウム定員を半数以下としたり、館内滞留者数を400人以下という厳しい制限を設けたりなどして対応した。また、来たくても来れない人に向けて400件を超えるオンラインコンテンツをホームページや各種SNSを通して配信を行った。</li> <li>一方的に配信するだけでなく、Zoomを使って双方向でのサイエンスショーや、協力協定締結研究機関の研究者による中学生から大人を対象とした講演会やサイエンスカフェなども相当数開催している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症が収束していない状況の中、今後も今年度同様の状況が継続されると思われる。</li> <li>消毒の困難な展示物などは休止としており、触られることの多い展示物やプラネタリウムドーム内の椅子・手摺は、スタッフが1日何回も消毒作業を行っており、その作業には非常に多くの時間と労力が費やされている。これら展示物や椅子・手摺に対し、数年は効果が保たれると言われている抗菌コーティングの実施を計画しており、現在文化庁助成金事業として申請中であるが、採択の可否に関わらず実施する方向で考えている。</li> <li>現在Zoomを使っているイベントとして、サイエンスショーや講演会などを実施しているが、これを観察・実験・工作といったワークショップに広げていくのが課題であり、いかに実施に漕ぎつけるかを進めている。</li> </ul>	A+	A+	<p><b>今年度事業の成果に対する評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍の厳しい状況の中で、感染防止対策を徹底しながら新しい取り組みとしてオンラインも駆使して事業展開していることは高く評価できる。</li> <li>400件を超えるオンラインプログラムの企画・実施は、コロナ禍であることをバネに生み出したもので、今後の科学館事業にも大きな意味を持つと考えられる。</li> <li>「多摩六都お魚マップを作ろう」は秀作だと思う。</li> </ul> <p><b>今後の課題・今後への期待</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オンラインによると、物理的な距離に関係なくいろいろな人たちに対して情報発信できるため、今後の活動に期待したい。</li> <li>コロナ収束後には、今回学んだこと・得たことを取り込み、コロナ前以上に幅広い取り組みを実施・発信することを期待している。</li> <li>Zoomなどオンラインでのイベントからの収入を得る工夫があれば、望ましいと考える。</li> </ul>

中期	年度	自己評価			外部評価	
		今年度の取組結果・成果	課題・今後の取組方針	目標の達成状況	評価	総評（総括的な意見など）
第3期 R2~ R5	R3	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度も前年度から引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止策を徹底している。</li> <li>文化庁の助成金事業に館内の抗菌ウイルスコーティングが採択され、プラネタリウムドーム内の椅子・手摺や、手で操作する体験型展示物、展示物を覆っているアクリルケースなどの抗菌ウイルスコーティングを実施でき、毎日数回の消毒作業でのスタッフの負担を大幅に減らすことができた。</li> <li>春の特別企画展（都道府県の石）はゴールデンウィーク明けまでの開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言の発出により、4月25日から5月末まで閉館することとなり中断となった。緊急事態宣言は6月20日まで延期となったが、博物館の休業要請は5月末で解除されたため、6月の1・2週目の土日も開催した。</li> <li>夏の特別企画展（パズル展）は7月11日に発出された緊急事態宣言下ではあったが、オリンピック開催中であったため博物館に対する休業要請はなく開催することができた。しかし、体験型の企画展であったことから、定員制とすることで密を避けての実施としたため、体験者数は通常を大きく下回らざるを得なかった。</li> <li>秋の企画展（ダンゴ虫）は前年度は開催できなかったが今年度は開催した。会場の滞留者数制限による随時入替とし、来場率（企画展観覧者数／来館者数）は100%を超え、来館者のほとんどが見学したと思われる。</li> <li>来館者との対面での対応となる「しぜんラボ」と「ちきゅうラボ」や、実験や工作などのワークショップなどは、先に記載した抗菌ウイルスコーティング処理でスタッフの消毒作業負担を減らすことができた。このことによって、密を避けるため1回当りの参加者数を減らすことは継続したが、開催の日数や回数を増やすことが可能となり、結果、参加者を増やすことができた。</li> <li>前年度に引き続き、オンラインでのコンテンツの配信や、Zoomを使ったサイエンスショーを実施した。今年度は試験的に、実験道具の作り方を送付し事前に作っておいてもらい、その道具を使っでの双方向オンラインでの教室なども実施した。また、外での講演実施が禁止されている研究機関の研究者による双方向のオンライン講演会なども継続している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対面での工作・実験などは、前年度よりは参加者を増やすことはできているが、まだ十分ではない。当日申込は午前の早い時間にすべて満席となり、事前予約制では定員を大きく上回る申し込みとなる教室もある。今後の状況を見極めながら、実施回数や定員数を増やす方向を模索する。</li> <li>休止している展示物がまだあるが、その休止解除の条件を明確にし、いつ解除するかを検討する。</li> <li>前年度に比べ、館内滞留者数制限やプラネタリウム定員を緩和しているが、いまだ全面解除には至っておらず、これらの制限解除の方向性を検討する必要がある。</li> <li>令和4年度の夏の企画展は貝をテーマとして、参加体験型ではなく展示主体で開催する予定である。普段見ている物の意外な面を展示することで興味を持てる内容となっている。会場内の滞留者制限は実施するが、随時入替制とすることで多くの方が来場できるよう対応していきたい。</li> <li>新型コロナウイルス感染拡大が収まってくることに伴い、館内での体験イベントを増やすと、スタッフがその館内イベントに注力することになる。当然オンライン配信が減ることが予想されるが、今後の利用状況やニーズを把握した上で対応を検討したい。</li> </ul>	A+	A+	<p><b>今年度事業の成果に対する評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍の中、館内滞留可能人数を割り出し、事前予約方式の導入、対面・オンラインといった手法を状況に応じて活用するなどして、来館者と科学とのつながりを途切れさせない努力を続け、非常に多様かつ多数のプログラムを実施し、幅広い来館者に多様な科学の刺激を提供したことを高く評価する。</li> <li>抗菌ウイルスコーティングなどにより、スタッフの負担軽減等の工夫をしながら、企画展やラボでの活動を実施したことは、評価に値する。</li> <li>大学の博物館実習から小学校の授業訪問など、多様な学校との連携を行っていることも、将来の来館者、科学愛好者を育む重要な活動であり、高く評価したい。</li> </ul> <p><b>今後の課題・今後への期待</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>業績指標の実績結果の欄で、目標値に達していないものについては、その理由を追求し、対策を考えることが必要である。</li> </ul>

1. 事業目標ならびに事業方針

註：事業目標・取組方針内の赤字は、「ローリングプラン2016」で修正された箇所。

第2次基本計画			指定管理者・事業計画
事業領域	事業目標-2	取組方針	令和2（2020）年度～令和5（2023）年度 第3期中期における事業の基本方針
事業計画 地域拠点事業	多摩六都の交流拠点 多摩六都科学館は、地域の人々が世代を超えて交流し、生涯学習や社会参画の場として活用できるよう、地域の交流拠点（ハブ）となります。	圏域市民の生涯学習への支援活動の拡充をめざします。また、地域の課題解決に向けたコミュニティの再生や共助社会づくりをめざして、多様な人々に広く開かれた地域コミュニティの交流拠点としての機能（中間支援機能*6）強化をめざします。	幅広い年齢層が科学を仲立ちとして交流・連携する場の創出 ソーシャル・インクルージョンをベースに、地域の課題解決やコミュニティの再生を果たすべく、科学館が地域の交流拠点（コミュニケーション・プラットフォーム）となって、地域づくりに取り組む市民団体や研究機関などの活動を支援し、地域づくり人材のサポートならびに育成へとつなげていきます。 コロナ禍によって浮き彫りとなった貧困や健康などについて、SDGsの視点より取り組んでいくことが圏域のコミュニティにとっても喫緊の課題となっており、コロナ収束後にあっても科学館にとって大きく、この現状を踏まえ今後具体的な事業展開をめざします。

2. 中期の重点戦略ならびに業績指標

註 赤字：新規の指標あるいは「ローリングプラン2016」で改訂された箇所 セル黄色：市民モニター関連  
青字：実状に沿うよう指標ならびに測定方法等を見直したもの 評価結果欄の斜め線：調査未あるいは定性評価として実施

3. 評価結果・指標の実績結果

重点戦略	事業概要	業績指標	定量	検証方法	中期目標・目標値	第2期		第3期・今中期				中期事業評価			
						H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R1	H28	
● ティアや友の会等の自主的な活動によって成長し、社会貢献し、自己実現できるよう支援活動を行います。	II-2-1	● ボランティアの科学館事業への支援延人数	*	A	3,000人以上 10人以上/1日 (開館日数300日)	5,131人 17人/1日	5,033人 17人/1日	4,233人 16人/1日 (開館269日)	評価不能	評価不能					
		● ボランティア主催事業回数	*	A	12回以上 (1回/月)以上	50回以上	50回以上	50回以上	評価不能	評価不能					
		● ボランティアによるプログラム開発		B	検討/実施	実施	実施	実施	評価不能	評価不能					
● 圏域市民の生涯学習に対する支援の拡充を図ります。科学館内だけでなく、地域との連携を図り、生涯学習の場と機会をつくり、コンテンツの提供を図ります。	主に II-2-1	● 市民活動支援事業		B	検討/実施	実施	実施	実施	実施	実施					
		● 市民活動支援事業		D		A	A	A	A	A					
		● 生涯学習に係わる事業への取り組み		B	検討/実施	実施	実施	実施	実施	実施					
● 場づくりだけでなく、地域の多様な主体がつながるためのきっかけづくりや関係を深めるための交流事業を行います。		● 地域づくりのための交流事業の実施		B	検討/実施	実施	実施	実施	実施	実施					
		● 地域づくりのための交流事業の実施		D		B	B	A	A	A					
● コミュニティカフェを科学館に導入（平成29年3月17日事業開始）。新たな地域コミュニティの交流の場・市民の社会参画の場として事業展開を図ります。		● カフェ利用者数（発券枚数による）	*	A	年間40,000人以上	47,455人	51,198人	45,070人	20,820人	30,524人					
		● カフェ利用者ならびにカフェ事業者の満足度	*	A	測定時期要検討 測定方法要検討										
中期的な指標	<組合>	生涯学習施設としての評価	*	E										4.57	
		指標：各世代にわたって生涯学習の推進に貢献できる科学館	*	E											4.46
		地域の交流拠点としての評価	*	E											4.17
		指標：地域の人々が世代を超えて交流できる科学館	*	E											
		「多くの圏域市民が参加し盛り上げていける科学館」としての評価（定量）	*	E											
<組合>	● コミュニティカフェとしての実現度・有効性		F	中期の指標とする			A						A		
	「多くの圏域市民が参加し盛り上げていける科学館」としての評価（定性）		F				A						A	A	
II-3-1	● ボランティアの満足度 → 組合が中期的に検証に変更	*	H												
	● ボランティアの自己実現度・社会貢献度 → 組合が中期的に検証に変更	*	H												
II-3-1	● 友の会会員数（削除）	*	A		1,500人以上										
	● 友の会市民モニター取り組み（削除）		B	検討/実施											

平均値：4.94

4. 評価結果（定性評価）

中期	年度	自己評価			外部評価	
		今年度の取組結果・成果	課題・今後の取組方針	目標の達成状況	評価	総評（総合的な意見など）
第2期 H29 ~R1	H29	評価コメントは、令和元（2019）年度事業評価報告書参照。	評価コメントは、令和元（2019）年度事業評価報告書参照。	A	A	評価コメントは、令和元（2019）年度事業評価報告書参照。
	H30	同上	同上	A	A	同上
	R1	同上	同上	A+	A+	同上
	中期	同上	同上	A+	A+	同上
第3期 R2~ R5	R2	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度末からのボランティア活動の休止は、結局今年度内で再開することはできなかったが、一部のボランティアの方によるZoomを使ってのクリスマスレクチャーの他、学校へ貸し出しするための教材制作、教師に対してその教材の使い方の指導、配信するオンラインコンテンツの作成などを行っていただいた。</li> <li>ジュニアボランティア活動では、1日午前・午後2人ずつ（昼食は取らない）を受け入れ、新たに作成した「多摩六都科学館セルフガイド」を使ってのモニタリングや一般ボランティアと同様に配信コンテンツの作成をお願いした。</li> <li>コロナ禍で初めて実施する企画展「ロクト運動サイエンスパーク」では、どうすれば密を避けられるかを検証するため、一般およびジュニアのボランティアの協力を依頼し、シミュレーションを実施した。</li> <li>前年度、好評を得た「0歳からのプラネタリウム」も、乳幼児への感染防止対策の徹底が困難であるため開催中止とした。</li> <li>前年度から開始した文化庁助成金事業「ミュージアムを中心とした地域の多文化共生推進プロジェクト」は2年目に入り、「やさしい日本語」でのワークショップやプラネタリウム投影などの開催数が増えてきている。また、多言語セルフガイドや日本語／英語のガイドブックが完成し、館内での配架を行うと共に、連携施設や協力先に配布した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア会は令和2年度末時点においても活動を休止している。現状を鑑みるとボランティアの方が来館者と接する活動は厳しいと考えられ、今年度同様にオンラインコンテンツの作成が中心となるが、科学館事業でも記載したように、Zoomを使っての観察・実験・工作と言ったワークショップ開催が可能となれば、ボランティア会の活動にも適用が可能となってくると考えられる。</li> <li>文化庁助成金事業「ミュージアムを中心とした地域の多文化共生推進プロジェクト」は、3年目の継続が決定し、助成額も多少増えている(655万円)。この3年目が最後の年となるので、リーフレットやガイドブックの日本語／中国語、日本語／韓国語版を完成させ、有効な成果を出すことをめざしたい。</li> </ul>	A	A	<p><b>今年度事業の成果に対する評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでのボランティア活動が展示室やアウトリーチ活動での対面型が多かったため、感染予防のためボランティア活動を休止していたが、ホームページでの配信コンテンツをジュニアボランティアと作成するなど、コロナ禍でも活動を絶やさない努力をしている点を評価したい。</li> <li>多文化共生推進プロジェクトが順調に行われ、多言語セルフガイドや日本語／英語ガイドブックを完成させたことは重要な成果であり、評価したい。</li> </ul> <p><b>今後の課題・今後への期待</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対面型のボランティア活動は休止に追い込まれているが、コロナ禍でも活動形態の工夫や再開時期の検討などを継続して行ってほしい。</li> <li>多文化共生の取り組みで、「やさしい日本語」に関連したプログラムは興味ある企画で今後の発展が望める。</li> </ul>
	R3	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度もボランティア会としての活動は再開できていないが、ボランティア個人として館庭雑木林の整備や自然の部屋の展示物更新作業など、細々ではあるが活動は継続している。また、2カ月毎にボランティアやスタッフからのメッセージを記載した「便り」を発行し、当館の広報物とともに各メンバーに送付し、多摩六都科学館ボランティア会メンバーとのつながりを切らさないようにした。</li> <li>残念ながら、前年度の課題・方針で記載したボランティア会主催でのオンラインによるワークショップは開催に至らなかった。</li> <li>ジュニアボランティアも前年度同様、来館者との対面活動はせず、多摩六都科学館のおもしろさを伝える広報物制作を中心に活動した。</li> <li>文化庁助成金事業「ミュージアムを中心とした地域の多文化共生推進プロジェクト」は3年目の今年度で最後となり、数多くのイベントを行った。さらにやさしい日本語、英語、中国語、韓国語の見どころマップやガイドブックの作成も完了した。またこの3年間の取り組みを通して、構成市や都内を中心に多くの多文化共生の活動団体とのつながりができ、大きな成果が上げられた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度に入り、4月にボランティア主体でNゲージ運転体験のイベントをジュニアボランティアのサポートのもと、一般来館者向けに実施した。一気にコロナ前の状態での再開は難しいが、徐々に活動再開していく方向で進めていく。</li> <li>文化庁助成金事業「ミュージアムを中心とした地域の多文化共生推進プロジェクト」は、今年度で最後となるが、この3年間の活動でつながりのできた多文化共生に取り組んでいる団体やイベントに参加いただいた外国にルーツを持つ人達との関係を失うことなく、さらに広げていくことが最も重要であると考え。そのために今後どういう取り組みを行っていくかを具体的に考え行動していきたいと考えている。</li> </ul>	A	A	<p><b>今年度事業の成果に対する評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで活発なボランティア活動が大きく評価されてきた。コロナ状況下で活動の全面再開はできていないが、ジュニアボランティアについてはNゲージ運転体験のイベントのサポートを行うなど活動の場をキープしている点は評価したい。</li> <li>ボランティア活動の全面再開ができていない中、文化庁助成事業の活動で、地域とのつながりを築いたことは評価に値する。</li> </ul> <p><b>今後の課題・今後への期待</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ジュニアボランティア以外のボランティア活動の再開ができていない。再開に向けての検討を期待したい。</li> <li>文化庁助成金事業「ミュージアムを中心とした地域の多文化共生推進プロジェクト」で得られた地域の団体やイベントに参加された外国にルーツを持つ人達との関係をさらに広げる取り組みを大きく発展させていくことに期待したい。</li> <li>今後、地域拠点事業を進めていくのであれば、外部と連携する際の仕組みやマネジメントのあり方について方針やルールづくりを明確にし、かつ外部の連携者や協力者による評価を導入することが必須であると思う。</li> </ul>

1. 事業目標ならびに事業方針

註：事業目標・取組方針内の赤字は、「ローリングプラン2016」で修正された箇所。

第2次基本計画			指定管理者・事業計画
事業領域	事業目標-3	取組方針	令和2（2020）年度～令和5（2023）年度 第3期中期における事業の基本方針
事業計画 地域拠点事業	多摩六都の魅力発信 多摩六都科学館は、地域資源の価値発信拠点です。さらに活動や場を介して、地域の様々な資源をつなぎ、新たな価値を市民の皆さんとともに作り上げ、社会に還元していく創造拠点となります。	第1期の3カ年で地域連携や地域資源の価値発信は一気に加速し、圏域における拠点施設としての重要度も高まりました。次のステージでは、さらに地域の多様な主体と連携を図り、5市全域の地域資源の価値を学術的に掘り起こし、その価値を圏域内外に周知させていく発信機能の強化を図ります。これによって、圏域市民が地元に着目し誇りを持ち、圏域外の人が興味を持ち訪れたいと思える地域になることが最終目標です。	地域資源や市民をつなぐ場／コミュニケーション・プラットフォームへと進化 展示や調査研究活動などを行う際、地域資源の価値発掘と魅力発信も視野に入れて活動を行い、圏域市民の「地域リテラシー」の醸成を図ります。また、「地域参画力」のある人材育成も行いながら、多摩六都圏域を支える諸団体・市民との連携に力を入れ、自律的な市民の地域づくりを支援します。 将来、科学教育のためのコンテンツやプログラムをオープン・データ化できるよう、開発を進めます。 2021年4月スタートの「多摩六都広域連携プラン（第四次多摩北部都市広域行政圏計画）」にも新型コロナウイルス感染症の影響は色濃く反映しており、感染症で浮き彫りになった課題をSDGsと関連付けた策定となっています。多摩六都科学館の2023年度までの基本方針とこの基本プランとの整合性を持たせ、圏域と連携を図りながら事業推進を行います。

2. 中期の重点戦略ならびに業績指標

註 赤字：新規の指標あるいは「ローリングプラン2016」で改訂された箇所 セル黄色：市民モニター関連  
青字：実状に沿うよう指標ならびに測定方法等を見直したもの 評価結果欄の斜め線：調査未あるいは定性評価として実施

3. 評価結果・指標の実績結果

重点戦略	事業概要	業績指標	定量	検証方法	中期目標・目標値	第2期		第3期・今中期				中期事業評価		
						H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R1	H28
						実測値	実測値	実測値	実測値	実測値	実測値	実測値	参考値	
● 地域の自然・文化・歴史・産業など様々な資源を、地域の皆さんと協力しながら、科学的な観点から価値づけ、その価値を広く発信していく活動を行います。	主に II-2-2	● 地域資源をテーマとした企画展の開催		B	検討/実施	実施	実施	実施	実施	実施				
		● 常設展示つながりスポットの充実		B	検討/実施	実施	実施	実施	実施	実施				
		● 地域資源をテーマとした学習プログラムの開発		B	検討/実施	実施	実施	実施	実施	実施				
		● 地域資源をテーマとしたイベントの実施		B	検討/実施	実施	実施	実施	実施	実施				
	1科学館事業全体	● 上記利用者・参加者の満足度（H29参考値：全体の満足度）	*	C	80%以上が満足 測定方法要検討	89%	89%							
● 「地域づくり」の第一歩として、地域資源と圏域市民をつなぐ・めぐる・知る」ための事業を行います。例えば、食・農・健康をテーマにしたローカルツアーや研究所や地元企業の見学会などが考えられます。	2地域拠点事業全体	● 多摩地域の価値を見出せる事業の実施（定性）		D		A+	A	A	A	A+				
		● 科学教育のためのコンテンツやプロダクトなどの開発		B	検討/実施	実施	実施	実施	実施	実施				
● こうした活動を通して、地域の人々の「地域参画力」を高めていきます。	組合との協働	● 圏域市民を対象とした地域づくりに関するプログラムの実施		B	検討/実施	実施	実施	実施	評価不能	実施				
● 多摩六都圏域だけでなく、多摩地域全体にも視野を広げ、気づかずに見過ごしている資源（地域づくりを実践できる創造的な人材やソフトも含む）の掘り起こしを行い、共有できるしくみを整備します。	中期的な指標	■ 「地域の振興に寄与できる科学館」としての評価（定量）	*	E									4.9	
		■ 「地域の振興に寄与できる科学館」としての評価（定性）		F				A				A	A	
		■ 「地域資源を生かした運営」に対する評価 指標：地域の資源（自然・文化・ひと等）を生かした運営を実践する科学館	*	E										4.94
		■ プログラム公開に向けた取り組み（削除）		B	検討/実施									

平均値：4.94



## 4. 評価結果（定性評価）

中期	年度	自己評価			外部評価	
		今年度の取組結果・成果	課題・今後の取組方針	目標の達成状況	評価	総評（総合的な意見など）
第2期 H29 ~R1	H29	評価コメントは、令和元（2019）年度事業評価報告書参照。	評価コメントは、令和元（2019）年度事業評価報告書参照。	A+	A+	評価コメントは、令和元（2019）年度事業評価報告書参照。
	H30	同上	同上	A	A+	同上
	R1	同上	同上	A	A	同上
	中期	同上	同上	A+	A	同上
第3期 R2~ R5	R2	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度実施した構成5市毎に開催する「市民ウィーク」や開館記念日に開催している「圏域市民感謝デー」はすべて中止となった。</li> <li>前年度大きく増えた圏域の団体・企業・公共施設・行政などの連携・協働イベントは、今年度は連携相手自身もそれぞれ厳しい活動制限が設けられているため激減した。外で少人数で実施する観察会やオンラインでの実施、資料の貸出しといった限定的な活動となった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度の報告にも記載しているが、数年に渡って培ってきている地域とのつながりや地域の価値の発信は大きく広がってきているが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、多くの人を集めるイベントの開催がままならない状況で、地域とのつながりが切れないようにするにはどうするかを今後考えていく必要がある。</li> <li>連絡だけは切れないように取り合うようにしているが、コロナ収束後を見据え、今後どうしていくかを協力先と一緒に検討を行っていききたい。</li> </ul>	A	A	<p><b>今年度事業の成果に対する評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍により構成5市の「市民ウィーク」や「圏域市民感謝デー」など圏域を対象とした地域づくりに関する大型イベントができなかったことは、実施者の責任によるものではないのでやむを得ないと考えます。</li> <li>地域と連携して地域資源をテーマとした観察会の実施など、小さいけれども、こうした時期だからこそしっかり取り組んでおきたい活動を地道に行っているところを評価したい。</li> </ul> <p><b>今後の課題・今後への期待</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍でも取り組めること、コロナ収束後を見据えての取り組みなど、地域の方々と地域の価値創造や発信のあり方を検討することは重要と言えよう。</li> </ul>
	R3	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度に引き続き構成5市毎に開催する「市民ウィーク」はすべて中止となった。「圏域市民感謝デー」は館庭や館内での人を集めての開催はできなかったが、「たまろくと[オンライン]市民感謝デー」として開催した。</li> <li>前年度はほとんど開催できなかった圏域の団体・企業・公共施設・行政などの連携・協働イベントは、やはり各団体自身がつながりを維持する必要性を認識しているため、オンラインでのイベント実施や講師の派遣などの対応で徐々にではあるが戻りつつある。特に構成市や市の施設からのイベント協同開催依頼が多く来るようになってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>連携してきた団体などの活動も少しずつ始まっており、地域とのつながりは戻りつつある。日常も戻り始めている傾向にあることから、今後の状況を見極めながら、つながりを広めていくことが必要であると考えている。</li> <li>また、各団体からの共催でのイベント実施の依頼に対しては積極的に受け入れていきたい。</li> </ul>	A	A	<p><b>今年度事業の成果に対する評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市民ウィークは中止となったが、昨年は実施できなかった館庭や館内での人を集めての「圏域市民感謝デー」をオンラインで実施した工夫は評価できる。</li> <li>これまで連携してきた圏域の団体・企業・公共施設などとの連携・協働イベントをオンラインでの実施や講師派遣などの対応で徐々に戻りつつあることなどは良い企画であったと評価する。</li> <li>コロナ後につながる、縁を切らさない取り組みを続けていることを高く評価したい。</li> </ul> <p><b>今後の課題・今後への期待</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域拠点事業は、組合にとっても非常に重要な取り組みであると考えられるので、指定管理者と組合が有機的に連携し、市民や協力者に対する敬意と感謝の思いを大切にし、取り組んでいただきたい。</li> </ul>

1. 事業目標ならびに事業方針

注：事業目標・取組方針内の赤字は、「ローリングプラン2016」で修正された箇所。

第2次基本計画			指定管理者・事業計画
事業領域	事業目標-4	取組方針	令和2（2020）年度～令和5（2023）年度 第3期中期における事業の基本方針
経営計画 マーケティング	愛着の持てるロクトへ 多摩六都科学館は、圏域市民の認知度・利用度を高め、利用者の満足度向上をめざします。さらに、市民から愛着を持って「自分の科学館／地域の科学館」と認められる存在となります。	圏域市民の認知度・利用度・満足度のアップをさらにめざします。長期的には、圏域市民の科学館に対する価値観を高めることをめざします。 多摩六都科学館が推進している取組方針を圏域市民に理解してもらえる機会や接点を作り、社会とのよりよい関係づくり（パブリック・リレーションズ機能）の強化を図ります。	「利用者中心」に一元化されたコミュニケーションマネジメントによるマーケティングの展開 コミュニケーションを重視した「DO！サイエンス」をさらに充実するため、最有力顧客であるファミリー層と、開発目標のシニア層をターゲットとした市場調査を行い、サービスの最適化を図ります。また、事業評価を的確にフィードバックし、サービス内容のさらなる向上につなげます。これらのサービスをターゲットマッチングを意識したタイムリーな広報・PR活動を行います。 展示情報のデジタル化をさらに進め、展示室のVR化による実体験の可能なリアル展示と遠隔からアクセス可能なバーチャル展示のマルチレイヤー化を進め、科学館価値を高めます。また、時間空間のバリアフリー化で新規利用者数の底上げを図ると共に、ソーシャル・インクルージョンエリアの拡張を図ります。

2. 中期の重点戦略ならびに業績指標

注 赤字：新規の指標あるいは「ローリングプラン2016」で改訂された箇所 セル黄色：市民モニター関連  
評価結果欄の斜め線：調査未あるいは定性評価として実施

3. 評価結果・指標の実績結果

重点戦略	事業概要	業績指標	定量	検証方法	中期目標・目標値	第2期		第3期・今中期				中期事業評価		
						H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R1	H28
● 利用状況やニーズを分析し、認知度・利用度・満足度を高める取り組みを中長期の観点から推進します。利用者を第一に考え、常に質の高いサービスを提供します。	II-3-2	● 利用者の満足度（全体・総合的な満足度）	*	C	80%以上を維持	89.4%	88.6%	89.9%	87.1%	94.1%				
● 市民や利用者の声を長期的に反映させるしくみ、ダイレクトに運営側に取り込めるしくみとして、市民モニター制度などの拡充を図ります。	組合との協働	● 市民モニター制度の実施		B	検討／実施	実施	実施	実施	実施	実施				
● 多摩六都科学館が圏域市民のために運営されている施設であることや今後の取組方針を周知し、理解者・賛同者を増やしていく活動を積極的に展開します。	II-3全体	● ロクトメンバーズやクラブ会員、ボランティアによるモニタリングの実施		B	検討／実施	実施	実施	実施	実施	実施				
● これまで同様、利用者向けのマーケティング戦略も重視する一方、今後は未利用者向けや地域づくりに携わっている圏域市民向けの対応策も検討します。また、事業ターゲットを想定した圏域市民の年代別人口構成の分析なども行います。	II-3全体	● マーケティング戦略の作成		B	検討／実施	実施	実施	実施	実施	実施				
● 広報については、エリア戦略とプロモーション戦略を検討し、効果を分析しつつ、有効かつ効率的な方法で展開します。	II-3全体	● 未利用者への利用促進策の実施		B	検討／実施	実施	実施	実施	評価不能	評価不能				
● 組合の主導のもとアクセスの利便性を高め、さらに改善を図るために、バス運行の導入を検討します。	II-3全体	● 未利用者への利用促進策の実施		D		B	A	A	A	A				
● 障がいのある方も、外国の方も、誰もが利用しやすいインクルーシブな（包括的な）ソフト・ハードの整備を図ります。	II-3全体	● 広報戦略の策定		B	検討／実施	実施	実施	実施	実施	実施				
	II-3全体	● アクセス改善・交通の便改善に向けた取り組み（協力）		B	検討／実施	実施	実施	実施	評価不能	評価不能				
	II-3全体	● 誰もが利用しやすい事業の実施（定性評価） ● ソーシャル・インクルージョンの観点から		B	検討／実施	実施	実施	実施	実施	実施				
	中期的な指標	■ 「自分の科学館／地域の科学館として価値ある存在」としての評価指標：ここ3年間の活動は、ご自分にとって、家族にとって、地域にとって価値あるものだったと思われませんか。	*	E										5.8
	中期的な指標	■ 「市民から愛される科学館」としての評価指標：自分の科学館・地域の科学館として市民から愛される科学館	*	E										5.48
	中期的な指標	■ 「市民から愛される科学館」としての評価		F				A				A	A+	
	<組合>	● 「交通の便を改善し利用しやすい科学館」としての評価	*	E										
	<組合>	● 圏域市民の科学館の認知度・利用度・満足度	*	E										
	組合との協働	● 利用者の声を反映した改善を可能とするしくみ検討に関する取り組み（削除）		B	検討／実施									

平均値：4.94

4. 評価結果（定性評価）

中期	年度	自己評価			外部評価	
		今年度の取組結果・成果	課題・今後の取組方針	目標の達成状況	評定	総評（総括的な意見など）
第2期 H29 ~R1	H29	評価コメントは、令和元（2019）年度事業評価報告書参照。	評価コメントは、令和元（2019）年度事業評価報告書参照。	A+	A+	評価コメントは、令和元（2019）年度事業評価報告書参照。
	H30	同上	同上	A	A	同上
	R1	同上	同上	A	A	同上
	中期	同上	同上	A+	A	同上
第3期 R2~ R5	R2	<ul style="list-style-type: none"> <li>● プラネタリウムの定員縮小や、館内滞留者数制限などにより、積極的な集客を目的とした広報活動が行えない状況にあるが、科学館事業でも記載したオンラインコンテンツ配信の周知のため、構成5市に向けて「新しい日常でもロクトを楽しもう！」と題するチラシの配布や、より閲覧しやすくするためのホームページの改良を行った。</li> <li>● 構成市や近隣市区の20万人近い小学生に配布していた「ロクトニュース」は当初発行を取りやめていたが、十分な感染対策を取った上でのワークショップ再開に合わせ、9,10月号から構成市の小学生のみ配布を開始した。さらに、科学館事業でも記載したが、春の企画展「都道府県の石」が集客よりも専門性を重視した内容であることから、興味を持っている方には来てもらうべきと考え、3,4月号の「ロクトニュース」は、従来通り近隣市区を含めた20万人への配布とした。</li> <li>● 前年度、「今後の取組方針」に記載した、現在のメンバーシップ制度を賛助会へと転換を図るため「ロクトメンバーズ」は休止し、サポーター（賛助会員）制度を立ち上げ、3月から導入・実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今後も積極的に集客を求める活動ができない中で、今後は多摩六都科学館の価値を維持し、「コロナ禍が収束したら行こう」という思いを持ち続けてもらえるようなマーケティング活動や広報活動が必要と考える。そのためには集客より情報の提供を主体とした「ロクトニュース」の発行を継続し、今後増やす方向にあるオンラインコンテンツを周知すると共に、「コロナが収まったら来てね」といったメッセージを送るような内容としていく。</li> <li>● ようやく立ち上げたサポーター制度は、ホームページにバナー広告を載せていただいている団体に広告主としてではなくサポーターと言う立場となってもらうことから始めている。今後、個人サポーターをいかに増やしていくかが課題である。</li> </ul>	A	A	<p><b>今年度事業の成果に対する評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● コロナ禍により集客を目的としたマーケティングが制限される状況の中で、オンラインコンテンツ配信や「ロクトニュース」の継続的な発行、サポーター制度の立ち上げなどが行われたことは評価できる。</li> <li>● オンラインコンテンツの配信によって、利用者層を広げる努力を行っていることを評価したい。</li> </ul> <p><b>今後の課題・今後への期待</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● オンラインコンテンツの配信については、コロナ収束後も重要な取り組みと言える。さらなる充実に期待したい。</li> <li>● ロクト（多摩六都科学館）に近い人たちはもとより、ロクトの利用者ではない「より大きな」市民層、またこれからのロクトを支える若年層へのさらなるアプローチが必要であると考ええる。</li> </ul>
	R3	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 前年度に比べ、市民の新型コロナウイルスに対する意識変容や館内の感染対策も万全を期していることから、最大の広報媒体である「ロクトニュース」は、新型コロナ感染防止に関する対策や注意事項を目立つように掲載した上で、コロナ前と同様に年間6回のすべてを構成市や近隣市区の20万人近い小学生に配布した。</li> <li>● 各種チラシも多数発行しているが、文化庁の多文化共生事業に合わせ、多文化共生イベントに関するチラシも対象となる方に届くよう発行した。</li> <li>● 今年度から開始した「サポーター制度」だが、前年度の課題としても記載したが、まだコロナ感染が完全に収まっていない状況にあるため、個人メンバーが当初の計画ほど増えていない。</li> <li>● マーケティングの活動自体はほぼコロナ前に戻りつつある。特にオリンピックが終わり、緊急事態宣言が解除された10月・11月はほぼコロナ前に近い来館状況に回復した。2021年12月半ばからの第6波到来時はさすがに来館者は減ったが、この第6波が収まり始めた2022年2月後半から再び来館状況が回復してきている。人々はその時点の状況を自分で判断して行動しているように思われ、「ロクトニュース」を中心とした広報がうまく機能していると考えられる。</li> <li>● マスコミへのプレスリリースなどは数多く配信しており、コロナ前と同じく各媒体に掲載されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● マーケティングの活動自体はほぼコロナ前に戻りつつある中で、今後の状況の変化に対し、多摩六都科学館の状況や各種制限に対する対応を迅速に広報することが必要である。また一方でこの状況を鑑みながら集客するための広報を進めていく必要がある。</li> <li>● 「取組結果・成果」の項でも記載しているが、「サポーター制度」が進展していない。コロナが影響していることもあるが、状況次第では制度の根本から考え直す必要がある。</li> </ul>	A	A	<p><b>今年度事業の成果に対する評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ここ数年、広報、マーケティングに力を入れている中でコロナ禍であったが、その中でできる限りのリサーチと実施、改善に取り組んでいることを評価したい。</li> <li>● コロナ禍の中、来館者の受け入れ体制などが刻々と変化していくため、それを利用者へに時機を逸することなく周知するマーケティング活動が重要となるが、それを意識した活動を行っていることは評価できる。</li> <li>● ロクトニュースをはじめとする配布資料を発行し、来館者の確保に向けての努力が結果として表れているのは評価できる。</li> </ul> <p><b>今後の課題・今後への期待</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● コロナ収束後に、コロナ禍で得られたノウハウをいかに生かすかが今後の課題だと考える。</li> <li>● 「サポーター制度」で個人メンバーが当初の計画ほど増えていないことに関しては、原因を調査し、改善策を考えていくことが必要である。</li> <li>● 来館者だけでなく、来館しない人たち（非・未来館者）の聞き取りや、サポーターの拡充など、市民一人一人に向き合い、大切にするという姿勢がますます大切になっていくと思う。</li> </ul>

1. 事業目標ならびに事業方針

注：事業目標・取組方針内の赤字は、「ローリングプラン2016」で修正された箇所。

第2次基本計画			指定管理者・事業計画
事業領域	事業目標-5	取組方針	令和2（2020）年度～令和5（2023）年度 第3期中期における事業の基本方針
経営計画 財政計画・ 体制整備	持続可能なしくみづくりを 多摩六都科学館は、ソフト・ハード両 面の改善が推進できる健全な財政計画 や協働体制を立案実行し、地域貢献で きる施設として持続可能な発展をめざ します。	今後も持続可能な成長・発展ができるよう、ハード だけでなくソフトの質的充実を図ります。そのため に、組合・指定管理者・支援者がそれぞれの立場で、 財源の確保や体制整備に取り組んでいます。	顧客満足度を高め、地域づくりの基盤となる体制整備 企画展の成果物を常設展示に活用できるよう、的確な予算計画を練り上げ、実施します。また、多摩・島しょ広域連携活 動助成金などの公的助成金により、新たなプログラムの開発に取り組みます。 顧客満足度の高いコミュニケーションサービスが達成できるよう、面談方式による人事評価を導入しスタッフの育成を図 り、体制整備を進めると共に、地域づくりのための体制やネットワークの構築も活動しつつ進めていきます。 また、コロナ禍での利用料金収入減を補うべく、雇用の維持を担保しつつ、効率的な事業推進を行います。

2. 中期の重点戦略ならびに業績指標

注 赤字：新規の指標あるいは「ローリングプラン2016」で改訂された箇所 セル黄色：市民モニター関連  
評価結果欄の斜め線：調査未あるいは定性評価として実施

3. 評価結果・指標の実績結果

重点戦略	事業概要	業績指標	定量	検証方法	中期目標・目標値	第2期		第3期・今中期				中期事業評価		
						H29 実測値	H30 実測値	R1 実測値	R2 実測値	R3 実測値	R4 実測値	R5 実測値	R1 実測値	H28 参考値
● 今後、科学館の取り組むべき基本事業に地域拠点事業を加える こととします。	<組合>	● 地域拠点事業推進状況のモニタリングならびに検証												
● 負担金・利用料金以外の外部資金の導入・活用策（寄附金、助 成金、補助金の確保の他、賛助組織など）を検討します。	Ⅲ収支	● 助成金など外部資金獲得に向けた取り組み ★★ ● 外部資金の導入策・活用策の検討・実施（削除）★		B	検討/実施	検討	実施	実施	実施	実施				
● 地域連携・協働体制は、組合・指定管理者などそれぞれの立場 で、共ににつくりあげていくしくみの強化を図っていきます。	<組合>	● 人的ネットワーク充実に向けた取り組み		B	検討/実施									
	Ⅰ-3等 事業全般	● 人的ネットワーク充実に向けた取り組み		B	検討/実施	実施	実施	実施	評価不能	評価不能				
		● 人的ネットワーク充実に向けた取り組み（当面は自己評価のみに変更）		D										
		● 将来的な体制整備の検討 ● プログラム開発に向けた市民参画型の取り組み		B	検討/実施	実施	実施	実施	評価不能	実施				
● 施設・設備の老朽化と長寿命化を図るとともに、常に魅力的な 施設であるために、展示やプラネタリウム等の定期的なり ニューアルが実現できるよう財政計画を検討します。	<組合>	● 財政計画の検証・改訂 ● 施設の長寿命化計画の検証ならびに作成												
● 継続的なコンテンツ開発、優秀な人材の確保など、ソフト整備 も長期的観点に立ち、財源確保を図ります。	主にⅡ-1-2	● 効率的・効果的な事業サイクルへの取り組み		B	検討/実施	実施	実施	実施	実施	実施				
	Ⅱ-1全体 Ⅱ-2全体	● プログラム開発の継続性・有効性（PDCA・企画管理等）		B	検討/実施	実施	実施	実施	実施	実施				
		● 他機関との連携によるコンテンツ開発・人材育成の実施		B	検討/実施	実施	実施	実施	実施	実施				
		● 他機関との連携によるコンテンツ開発・人材育成の実施		D		A+	A+	A+	A+	A+				
		● 優秀な人材の確保および育成（研究者・学芸員の充実）		B	検討/実施	実施	実施	実施	実施	実施				
■ 持続可能な財政計画・体制整備の推進（定性的評価）	中期的な指標			B	検討/実施			A+				A+	A+	
● 駐車場が不足しているなど施設に関する課題を解決するための 取り組みを行います。交通機関の協力や投資の必要もあ りますが、長期的な観点から改善策を検討します。	Ⅱ-1-1 Ⅱ-2全体			B	検討/実施									

★：外部資金の導入・活用に関しては、すでに多様な取り組みを実施しているので2022年6月に削除  
★★：助成金だけでなく幅広い外部資金を獲得し事業を実施している実態に沿うよう「など外部資金」の文言を2022年6月に挿入

4. 評価結果（定性評価）

中期	年度	自己評価			外部評価	
		今年度の取組結果・成果	課題・今後の取組方針	目標の達成状況	評価	総評（総合的な意見など）
第2期 H29 ~R1	H29	評価コメントは、令和元（2019）年度事業評価報告書参照。	評価コメントは、令和元（2019）年度事業評価報告書参照。	A	A+	評価コメントは、令和元（2019）年度事業評価報告書参照。
	H30	同上	同上	A	A	同上
	R1	同上	同上	A	A	同上
	中期	同上	同上	A+	A	同上
第3期 R2~ R5	R2	<ul style="list-style-type: none"> <li>対前年度比で利用者数が60.4%減、利用料金収入が60.8%減となった中で、発生費用を徹底的に抑え、新型コロナウイルス感染拡大防止に関する費用は相当額を必要としたが、文化庁の助成金を受けるなどでの運営を行った。中でも、多摩六都科学館組合からの事業継続支援金（5千万円）は大きく、スタッフの雇用が確保できたとともに、コロナ禍に適応した環境整備を行いながら質の高いサービスを提供することができた。</li> <li>これまで進めてきた乃村工藝社が運営している各館との連携や協力は、都立の施設がほぼ1年間休館していたことや、その他の施設も休館や運営縮小のため進んでいない。</li> <li>自主事業のショップ販売は、外出制限による巣ごもり需要により前年度に対し売上減少はしているが、その割合は利用料金収入の減少率よりは少ない状況である。こうした需要を考慮し、巣ごもり向けの商品を多めに並べるようにしている。</li> <li>プラネタリウムドームでのコンサートは、令和2年度は残念ながら1件も開催できなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後もプラネタリウムの定員削減や館内滞留者制限が継続され、4月25日からの緊急事態宣言の発出による臨時休館となっている状況で、利用料金収入激減が想定され、厳しい運営となることが予想される。こうした状況下のため、発生費用を徹底的に抑えることにはなるが、スタッフの雇用は確保し、コミュニケーションと専門性のスキルアップは継続するなど、いつかは必ず収まるコロナ禍が収束した時に、コロナ前と同じ状態でいられる体制を維持していきたい。</li> </ul>	A	A+	<p><b>今年度事業の成果に対する評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用料金収入が対前年度比で約60%減という厳しい状況の中で、文化庁補助金の獲得など外部資金調達に努力している点を評価する。</li> <li>組合と構成5市主導で獲得した事業継続支援金についても、書類作成など積極的に協力した点を評価したい。</li> <li>スタッフの雇用確保ができたことは大きな成果であり、スタッフのコミュニケーション能力の向上や専門性のスキルアップの継続に努めたことは、高評価である。</li> <li>地域企業からの支援もきちんと獲得しており、日頃から地域との関係構築を図っている点も評価したい。</li> </ul> <p><b>今後の課題・今後への期待</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オンラインプログラムからの収入確保など、今後も引き続き工夫を凝らしてほしい。</li> </ul>
	R3	<ul style="list-style-type: none"> <li>対前年度比で利用者数が156%、利用料金収入が170%となり大幅に増えてはいる。しかし、コロナ前の平成30年度に比べると利用者数が57%、利用料金収入で62%の状況で厳しい運営が続いているが、利用者減少による発生費用の自然減や極力影響の出ない範囲での経費縮小などによって、スタッフ雇用を確保した上で赤字は出さずに済んでいるのが現状である。</li> <li>①科学館事業にも記載したが、文化庁助成での館内の抗菌ウイルスコーティングを実施したが、多摩六都科学館組合も文化庁の助成で手指・物の消毒用アルコールを大量に入手していただいたので大いに助かっている。</li> <li>前年度に引き続き、学校に行く機会や友達と遊ぶことが減っていたり、家族での外出機会が少なくなったりしているなど、巣ごもり需要が継続している。その巣ごもり需要向けの商品を多く扱うことによる成果か、自主事業のショップ売上高は過去最高となった。</li> <li>前年度新型コロナウイルスにスタッフ2名が感染（館内感染ではない）したが、乃村工藝社の規定に即した対応で両名とも通常業務に復帰できている。現在、乃村工藝社全社員に抗原検査キットが配布されており、具合が悪くなった時はすぐ検査するよう指示が出ているとともに、その後の対応ルールが確立されている。</li> <li>前年度実施できなかったプラネタリウムコンサートは、映画館などの定員制限が通常に戻っていることから2件開催できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組結果・成果で記載しているが、経費縮小は極力影響の少ない範囲で行っているとは言え、企画展予算やプラネタリウム映像予算などを多少なりとも減らしていることは確かであり、この状況が続けば利用者満足度の低下に繋がりがかねないため、来年度の状況による対応を慎重に考える必要がある。</li> <li>自主事業のショップ販売が巣ごもり需要で好調であるが、今後新型コロナウイルス感染が収まり通常に戻っても、ショップ売上を維持するため、この2年間の巣ごもり需要で得られたショップ利用者の嗜好を考慮し商品の選定を図っていく。</li> <li>乃村工藝社が指定管理を委託されている施設も徐々にではあるが、正常状態に戻りつつあることから、令和4年度から再び連携や協力の再開を検討していく。</li> </ul>	A	A	<p><b>今年度事業の成果に対する評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>利用者数が前年度比156%、利用料金が170%と大幅な増加を見ているが、コロナ前と比べると利用者数は57%、利用料金収入は62%と厳しい状況が続いている。この状況でも懸命の努力で、スタッフの雇用を確保し、赤字を出さずに運営できていることは高く評価できる</li> </ul> <p><b>今後の課題・今後への期待</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>館の活動を支える最も重要な要素である《人》について考えた時に、個々のスタッフが、コロナ禍の中、どのようにモチベーションを保ち、健全な体制のもとに勤務ができてきているかは、今回の報告書からは明確にはわからなかった。研修の内容、スタッフの労務管理状況、評価制度と実際など、より詳しい状況を次回は報告していただきたい。</li> </ul>

1. 事業目標ならびに事業方針 (科学館事業 2頁参照)

2. 中期の重点戦略ならびに業績指標

赤字：新規の指標あるいは「ローリングプラン2016」で改訂された箇所

評価結果欄の斜め線：調査未あるいは定性評価として実施 セル黄色：市民モニター関連

3. 評価結果・指標の実績結果

重点戦略	業績指標	定量	検証方法	中期目標	第2期			第3期・今中期			中期事業評価			
					H29 実測値	H30 実測値	R1 実測値	R2 実測値	R3 実測値	R4 実測値	R5 実測値	R1 実測値	H28 参考値	
専門性とエンジョイメントを基本とし見通しを持った体験による実感を伴った理解とコミュニケーションを重視した、探求的で主体的な学びとなる事業を行います。	乃村													
ソーシャル・インクルージョンに基づき、誰もが分け隔てなく参加して楽しめるよう、子どもだけでなく、高齢者も障がいのある方も、すべての人々がともに楽しみながら学べる場と機会の創造に努めます。	● ソーシャル・インクルージョンに基づく活動への取り組み		B	検討/実施	実施	実施	実施	実施	実施					
	● ソーシャル・インクルージョンに基づく活動への取り組み		D		B	A	A	A	A+					
展示や教育普及活動がさらに充実するよう、科学館事業の基盤となる収集・保存・調査研究活動の強化を図ります。特に東京の自然史(地域資源)を重要テーマと位置づけます。	乃村													
多様なテーマ(健康・食・芸術など)を科学的なアプローチで探求し、科学に興味のない方でも来てみたいと思わせる事業展開を図ります。様々な利用者層に合わせたプログラムで、科学への興味を引き出す場をつくりだします。	● 科学への興味喚起度(市民モニターが検証・定性的)		D		A+	A+	A+	A+	A+					
	行政への働きかけや体制整備に向けての取り組み(削除)		B	検討/実施										
館内だけでなく、地域全体にも活動フィールドを拡げ、多くの方々が科学の楽しさを体験できるよう、アウトリーチ活動を推進します。特に来館しづらい環境にある学校に対してアウトリーチ活動を行っています。	● 業務基準書改訂に向けた検証(削除)		B	検討/実施										
市民や機関と連携を図り、圏域内に科学教育の場が広がっていくことも視野に入れて事業展開を図ります。	● 圏域内でのアウトリーチ活動の推進		B	検討/実施	実施	実施	実施	実施	実施					
中期的な指標	■ 「誰もが科学を楽しめる科学館」としての評価(定量)(削除)	*	E										5.49	
	■ 「誰もが科学を楽しめる科学館」としての評価(定性)(削除)		F										A	
	■ 圏域市民の科学リテラシーの向上(科学への興味喚起度)(定量) 指標：生活の中で役立つ科学の知識が身につく、世界の課題を科学的な観点から考えることができる科学館	*	E											4.99
	■ 圏域市民の科学リテラシーの向上(科学への興味喚起度)(定性)		F				A					A	A	
	■ 科学の担い手の育成(定性)		F				A+					A+	A+	
	■ 継続的なユーザーの評価(元ジュニアボランティア、友の会)		G											
	■ 「科学館での体験を通して、考え方や生き方に変化が生まれたか」そのような事業を行っているか(定性)		F					A+				A+	A+	

平均値：4.94

1. 事業目標ならびに事業方針 (地域拠点事業 4頁、6頁参照)

2. 中期の重点戦略ならびに業績指標

赤字：新規の指標あるいは「ローリングプラン2016」で改訂された箇所

評価結果欄の斜め線：調査未あるいは定性評価として実施 セル黄色：市民モニター関連

3. 評価結果・指標の実績結果

重点戦略	業績指標	定量	検証方法	中期目標	第2期			第3期・今中期				中期事業評価	
					H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R1	H28
					実測値	実測値	実測値	実測値	実測値	実測値	実測値	実測値	参考値
地域の人々が立場を変えつつも人生を通して、科学館ボランティアや友の会等の自主的な活動によって成長し、社会貢献し、自己実現できるよう支援活動を行います。	● 事業評価における市民モニターの導入実施 (マーケに移動)		B	検討/実施									
	■ ボランティア活動の成果を発信		B	検討/実施	実施	実施	実施	実施	実施				
圏域市民の生涯学習に対する支援の拡充を図ります。科学館内だけでなく、地域との連携を図り、生涯学習の場と機会をつくり、コンテンツの提供を図ります。	貸出の需要、ルールなどの検討 (削除)		B	検討/実施									
	● 市民活動支援事業		D		A	A	A	A	A				
場づくりだけでなく、地域の多様な主体がつながるためのきっかけづくりや関係を深めるための交流事業を行います。	● 生涯学習に係わる事業への取り組み		D		A	A	A	A	A				
	● 地域づくりのための交流事業の実施		D		B	B	A	A	A				
コミュニティカフェを科学館に導入 (平成29年3月17日事業開始)。新たな地域コミュニティの交流の場・市民の社会参画の場として事業展開を図ります。	中期の指標あるいは定性指標：コミュニティカフェの導入によって、新たな地域コミュニティの交流・社会参画の場として機能しているか (★に変更)		D	★中期の指標に移行									
科学館をもっと気軽に利用してもらえよう、無料ゾーン・有料ゾーンの設定を変更し、無料ゾーンの充実を図ります。	施設構成および改修計画の検討 (削除)		B	検討/実施									
中期的な指標	生涯学習施設としての評価 指標：各世代にわたって生涯学習の推進に貢献できる科学館	*	E										4.57
	地域の交流拠点としての評価 指標：地域の人々が世代を超えて交流できる科学館	*	E										4.46
	「多くの圏域市民が参加し盛り上げていける科学館」としての評価	*	E										4.17
	■ ボランティアの満足度 →組合が中期的に検証	*	H										
	■ ボランティアの自己実現度・社会貢献度	*	H										
	■ コミュニティカフェとしての実現度・有効性★		F	★移行			A					A	
地域の自然・文化・歴史・産業など様々な資源を、地域の皆さんと協力しながら、科学的な観点から価値づけ、その価値を広く発信していく活動を行います。	● 多摩地域の価値を見出せる事業の実施 (定性)		D		A+	A	A	A	A+				
	協働体制の整備 (削除)		B	検討/実施									
「地域づくり」の第一歩として、地域資源と圏域市民を「つなぐ・めぐる・知る」ための事業を行います。例えば、食・農・健康をテーマにしたローカルツアーや研究所や地元企業の見学会などが考えられます。	データベース整備に関する検討 (削除)		B	検討/実施									
こうした活動を通して、地域の人々の「地域参画力」を高めていきます。	● 圏域市民を対象とした地域づくりに関するプログラムの実施		B	検討/実施	実施	実施	実施	評価不能	実施				
長期的・間接的な効果として、科学の担い手の育成、地域産業の活性化も展望として掲げ、事業の展開を図ります。	● 長期的な観点を持って取り組み		B	検討/実施	実施	実施	実施	評価不能	実施				
地域の学術機関や地域産業との連携を深め、協働で多摩六都圏域の特徴を基にした「地域づくり」事業の推進を図ります。	業務基準書の改訂 (削除)		B	検討/実施									
多摩六都圏域だけでなく、多摩地域全体にも視野を広げ、気づかずに見過ごしている資源 (地域づくりを実践できる創造的な人材やソフトも含む) の掘り起こしを行い、共有できるしくみを整備します。(中期的な取り組み→中期的な指標)	■ 「地域の振興に寄与できる科学館」としての評価 (定量)	*	E										4.9
	■ 「地域の振興に寄与できる科学館」としての評価 (定性)		F				A					A	A
長期的・間接的な効果として、科学の担い手の育成、新たな産業創出も展望として掲げ、事業の展開を図ります。(中期的な取り組み→中期的な指標)	「地域資源を生かした運営」に対する評価 指標：地域の資源 (自然・文化・ひと等) を生かした運営を実践する科学館	*	E										4.94

平均値：4.94

4. 評価結果（定性評価）

中期	年度	自己評価			外部評価	
		今年度の取組結果・成果	課題・今後の取組方針	目標の達成状況	評価	総評（総合的な意見など）
第2期 H29 ~R1	H29	評価コメントは、令和元（2019）年度事業評価報告書参照。	評価コメントは、令和元（2019）年度事業評価報告書参照。	A	A	評価コメントは、令和元（2019）年度事業評価報告書参照。
	H30	同上	同上	A	A	同上
	R1	同上	同上	A	A	同上
	中期	同上	同上	A	A	同上
第3期 R2~ R5	R2	<ul style="list-style-type: none"> <li>「市民ウィーク」、「圏域市民感謝デー」は、年々認知度が高まってきているところであるが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施することができなかった。特に、「圏域市民感謝デー」は前年度中止となっていることから、少しでも圏域市民の期待に応えられるよう事業内容を縮小した上で準備を進めていたが、残念ながら実施には至らなかった。</li> <li>文化庁助成金事業「ミュージアムを中心とした地域の多文化共生推進プロジェクト」は、今年度から内定額が前年度の2倍の約500万円となった。前年度に引き続き、先進施設へのヒアリング調査（2施設）を行うとともに、日本語／英語による科学館ガイドブックの制作などの多言語化サービス向上のための環境整備や、「やさしい日本語でプラネタリウムを楽しもう」などの地域在住外国人向けの特別講座を実施し、サービスの向上に取り組んだ。「やさしい日本語でプラネタリウムを楽しもう」では、前年度に比べて約12倍（約60名）の参加者実績を上げることができた。</li> <li>圏域内でのアウトリーチ活動は、新型コロナウイルスの感染防止策を講じた上で、9月より圏域小学校を対象としたプログラムを再開した。プラネタリウム学習での来館ができない学校が多数発生していることを考慮して、今年度は前年度を上回る学校の受け入れを行った（延べ11校）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>従来型のリアルな場での多くの市民を対象とした事業の実施が、コロナ禍の新たな日常では、3密になり易いことより難しい状況にあるため、事業者や市民団体などの多様な地域の主体や、交通アクセス不便地域の市民とこれまでに築き上げてきたつながりをどのようにして維持・発展させていくかが課題として浮彫りとなった。今後は、新たな日常に適応できるようデジタル技術を活用したバーチャルな場での市民とのつながりについても調査研究を進めていきたい。</li> <li>文化庁助成金事業「ミュージアムを中心とした地域の多文化共生推進プロジェクト」は、今年度で2年目となり、関連プログラムの充実が図られてきているところではあるが、まだまだ圏域在住外国人の認知度が低い状況である。今後は、圏域在住外国人の現状把握や認知度向上に向けた調査などの取り組みを進めていきたい。</li> </ul>	A	A	<p><b>今年度事業の成果に対する評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>博物館相当施設の指定を受けたことや、これから非常に重要となる多文化共生への率先した取り組み、他館との情報共有、連携、情報交換・交流を行っている点を評価したい。</li> <li>文化庁助成金事業の内定額が前年度の2倍となったことは、これまでの努力が評価された証しと言える。</li> <li>多言語化サービス向上のための環境整備や、「やさしい日本語」でのプラネタリウム開催など効果をあげていることを評価したい。</li> <li>コロナ禍により校外学習で科学館に来にくい状況であるからこそ、アウトリーチ活動にも力を入れ、圏域小学校の受け入れ数が前年度を上回ったのは評価に値する。</li> </ul> <p><b>今後の課題・今後への期待</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>バーチャルな場での市民とのつながりは、未来館者との新たな関係を築く上で、可能性を秘めていると言える。今後はオンライン活用をさらに推進し、バーチャルとリアルの相乗効果によって、科学館の事業をより一層地域に広め深めていくことを期待したい。</li> <li>外国語での呼びかけ効果をあげたいのであれば、圏域在住外国人のデータに基づくマーケティング活動を行うべきと思う。</li> </ul>
	R3	<ul style="list-style-type: none"> <li>構成5市毎に開催する「圏域市民ウィーク」は、新型コロナの影響の長期化により今年度も実施することができなかったが、「圏域市民感謝デー」はオンラインにて3年ぶりに実施することができた。「こども科学Zoom相談」、「オンライン天体観望会」、「プラネタリウム解説員のお仕事見学」の3つのプログラムを3月5日（土）、6日（日）の2日間にわたり、事前応募制にて実施した。一部のプログラムで抽選になるほどとなり、2日間で約900組の応募があり、約660組の圏域市民が参加した。</li> <li>文化庁助成金事業「ミュージアムを中心とした地域の多文化共生推進プロジェクト」は、補助事業としては今年度が最終年度（3年目）となり、約650万円の交付決定額（対前年度比約150万円）にて実施した。前年度に引き続き多文化共生の取り組み実態調査を圏域5市などへ行い、調査結果から圏域内に現在約1.6万人の在住外国人がいることが分かった。この他、多言語化サービス向上のための環境整備や、地域在住外国人向けの特別プログラムを実施し、本プロジェクトを深化させた。</li> <li>圏域内でのアウトリーチ活動は、前年度に引き続き通常より多くの学校11校（前年度と同数）の受け入れを行い、圏域5市全域で注力した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度はデジタル技術を活用して3年ぶりに「圏域市民感謝デー」をオンライン配信にて実施した。オンライン配信の特徴の一つとして、距離の壁などを越えて多くの圏域市民が科学に触れる機会を提供することができるため、これからも未利用者を含めてより多くの人々とつながることができるプログラム開発の研究に努めていきたい。</li> <li>一方、新型コロナウイルス感染症の影響の長期化により、従来型のリアルな場での多くの圏域市民を対象とした事業の実施やボランティア活動などが引き続き難しい状況にある。このため、地域コミュニティの交流拠点として、事業者や市民などの地域の多様な主体や、交通アクセス不便地域の市民とのつながりをどのように維持・発展させていくかが今後も継続的な課題である。</li> </ul>	A	A	<p><b>今年度事業の成果に対する評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍の中、指定管理者と連携し、オンラインなどを活用し、計画した事業をできるだけ充実した形で進めたことは評価できる。</li> <li>地元の市民グループと連携し、指定管理者との協働体制で文化庁の助成金事業を行ったことは地域づくりに寄与する科学館を標榜する点から評価したい。</li> </ul> <p><b>今後の課題・今後への期待</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で得られたオンライン技術を将来に向けて進化させていくことは、未利用者への情報提供に役立つ可能性があることや、圏域内に約1.6万人の在住外国人がいることが分かりこの方々へのアクセスの必要性を改善するために役立つ可能性があることなどから今後も重要な課題だと考える。</li> <li>多文化共生や外部連携は、組合としての継続的な課題である。</li> </ul>



1. 事業目標ならびに事業方針 (8頁、10頁参照)

2. 中期の重点戦略ならびに業績指標

赤字：新規の指標あるいは「ローリングプラン2016」で改訂された箇所

評価結果欄の斜め線：調査未あるいは定性評価として実施 セル黄色：市民モニター関連

3. 評価結果・指標の実績結果

重点戦略	業績指標	定量	検証方法	中期目標	第2期			第3期・今中期				中期事業評価		
					H29 実測値	H30 実測値	R1 実測値	R2 実測値	R3 実測値	R4 実測値	R5 実測値	R1 実測値	H28 参考値	
利用状況やニーズを分析し、認知度・利用度・満足度を高める取り組みを中長期の観点から推進します。利用者を第一に考え、常に質の高いサービスを提供します。	● 利用者の声を反映した改善を可能とするしくみ検討に関する取り組み (削除)		B	検討/実施										
市民や利用者の声を長期的に反映させるしくみ、ダイレクトに運営側に取り込めるしくみとして、市民モニター制度などの拡充を図ります。	● 市民モニター制度の実施 (移動)		B	検討/実施	実施	実施	実施	実施	実施					
多摩六都科学館が圏域市民のために運営されている施設であることや今後の取組方針を周知し、理解者・賛同者を増やしていく活動を積極的に展開します。	● 科学館の取り組み周知活動の実施		B	検討/実施	実施	実施	実施	実施	実施					
これまで同様、利用者向けのマーケティング戦略も重視する一方、今後は未利用者向けや地域づくりに携わっている圏域市民向けの対応策も検討します。また、事業ターゲットを想定した圏域市民の年代別人口構成の分析なども行います。	● 未利用者への利用促進策の実施		D		B	A	A	A	A					
広報については、エリア戦略とプロモーション戦略を検討し、効果を分析しつつ、有効かつ効率的な方法で展開します。	● 乃村 (POSデータ・地域性や年齢別に分析)													
組合の主導のもとアクセスの利便性を高め、さらにアクセスの改善を図るために、バス運行の導入を検討します。	● 交通の便を改善し利用しやすい科学館への取り組み		B	検討/実施	実施	実施	実施	評価不能	評価不能					
障がいのある方も、外国の方も、誰もが利用しやすいインクルーシブな (包括的な) ソフト・ハードの整備を図ります。	● 誰もが利用しやすい事業の実施 (定性評価) ● ソーシャル・インクルージョンの観点から		B	検討/実施	実施	実施	実施	実施	実施					
館名のわかりやすさは、愛称やキャッチコピー、VI (ビジュアル・アイデンティティ) 等を導入し、コミュニケーション計画の改善を図ります。	● 将来展望の検討 (削除)		B	検討/実施										
中期的な指標	● 圏域市民の科学館の認知度	*	E											91.9%
	● 圏域市民の科学館の利用度 (全体・未認知者も含む)	*	E											67.2%
	● 圏域市民の利用時の満足度 (満足+どちらかと言えば満足の割合)	*	E											92.6%
	「自分の科学館/地域の科学館として価値ある存在」としての評価指標：ここ3年間の活動は、ご自分にとって、家族にとって、地域にとって価値あるものだったと思われますか。	*	E											5.8
	「市民から愛される科学館」としての評価* 指標：自分の科学館・地域の科学館として市民から愛される科学館	*	E											5.48
	「交通の便を改善し利用しやすい科学館」としての評価 ■ 「市民から愛される科学館」としての評価	*	E											3.94
今後、科学館の取り組むべき基本事業に地域拠点事業を加えることとします。	● 地域拠点事業推進状況のモニタリングならびに検証		B	検討/実施	実施	実施	実施	実施	実施					
負担金・利用料金以外の外部資金の導入・活用策 (寄附金、助成金、補助金の確保の他、賛助組織など) を検討します。	● ネーミングライツの検討、圏域5市が共同で実施する助成事業の継続実施		B	検討/実施	実施	実施	実施	評価不能	実施					
地域連携・協働体制は、組合・指定管理者などそれぞれの立場で、共につくりあげていくしくみの強化を図っています。	● 乃村 人的ネットワーク充実に向けた取り組み (試行後、削除) ● 人的ネットワーク充実に向けた取り組み ● 人的ネットワーク充実に向けた取り組み (試行後、削除)		B	検討/実施										
施設・設備の老朽化対策と長寿命化を図るとともに、常に魅力的な施設であるために、展示やプラネタリウム等の定期的なリニューアルが実現できるよう財政計画を検討します	● 財政計画の検証・改訂 ● 施設の長寿命化計画の検証ならびに作成		B	検討/実施	実施	実施	実施	実施	実施					
継続的なコンテンツ開発、優秀な人材の確保など、ソフト整備も長期的観点に立ち、財源確保を図ります。	● 他機関との連携によるコンテンツ開発・人材育成の実施		D		A+	A+	A+	A+	A+					
中期的な指標	■ 持続可能な財政計画・体制整備の推進 (定性的評価)		B				A+						A+	A+
駐車場が不足しているなど施設に関する課題を解決するための取り組みを行います。交通機関の協力や投資の必要もありますが、長期的な観点から改善策を検討します。	● 緑環境に配慮した駐車場の整備 (削除)		B	検討/実施										

4. 評価結果（定性評価）

中期	年度	自己評価			外部評価	
		今年度の取組結果・成果	課題・今後の取組方針	目標の達成状況	評価	総評（総括的な意見など）
第2期 H29 ~R1	H29	評価コメントは、令和元（2019）年度事業評価報告書参照。	評価コメントは、令和元（2019）年度事業評価報告書参照。	A	A	評価コメントは、令和元（2019）年度事業評価報告書参照。
	H30	同上	同上	A	A	同上
	R1	同上	同上	A	A	同上
	中期	同上	同上	A	A	同上
第3期 R2~ R5	R2	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民モニター活動は、今年度は継続7名、新規2名の合計9名にて実施した。新規2名は、前年度の中期定性評価にてご協力をいただいた市民である。</li> <li>毎年度12月と3月に実施している市民モニター意見交換会は、コロナ禍のため、前年度は書面開催としたが、今年度は事前アンケートを行い、市民モニターの協力のもとオンライン形式で予定どおり2回開催した。ご協力いただく市民モニターの安全面だけでなく、オンラインでも多くの意見が出やすいよう進め方などにも配慮し、市民参画による評価活動を継続的に実施することができた。</li> <li>外部資金の導入では、「ミュージアムを中心とした地域の多文化共生推進プロジェクト」による文化庁の助成金約400万円(計画変更後額)の他に、新型コロナウイルスの影響により指定管理者利用料金収入が年間約1億円減収することが見込まれたため、構成5市に財政支援の要請を行い、国の新型コロナウイルス感染症対応による地方創生臨時交付金を活用した事業継続支援金として5,000万円の臨時的な財源を確保することができた。</li> <li>毎年度実施している「多摩・島しょ広域連携活動助成事業」については、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったため、業績指標の「ネーミングライツの検討、圏域5市が共同で実施する助成事業の継続実施」の自己評価は評価不能とした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民モニター活動では、圏域全市からのメンバー構成とならなかったことや、若い世代の意見収集ができなかったため、引き続き多くの市民の意見を施設運営に反映し、運営改善やサービスの向上が実現できるよう取り組んでいく。</li> <li>新型コロナウイルスの影響により指定管理者利用料金収入の大幅減収に加えて、当組合への指定管理者利用料金還元金の実績がない状況となり、施設管理者および施設設置者ともに厳しい財政運営となった。しかし、コロナ禍においても、設置目的に基づき、利用者ニーズを踏まえた質の高い住民サービスを継続的、安定的に提供できるよう構成市との連携を密にして、国の交付金や補助金などの外部資金の獲得に努めていく。</li> </ul>	A	A	<p><b>今年度事業の成果に対する評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナの影響で年間約1億円の減収が見込まれる中で、構成5市への財政支援の要請を行い、国の新型コロナウイルス感染症対応による地方創生臨時交付金5千万円の財源を確保したことは、大変重要な貢献と言える。この点を高く評価したい。</li> <li>市民モニターによる評価活動が、オンライン形式で2回実施したことは、多くの意見を取り入れるうえで、良い対策であり評価できる。</li> </ul> <p><b>今後の課題・今後への期待</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の人々の良識を通して評価する市民モニターの意見は貴重だが、それとは別に地域の人々の一般的な科学館への認識・評価をなんらかの形で知る必要があるだろう。</li> </ul>
	R3	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の市民モニター活動は、年度当初で1名が辞退したため8名にて継続実施した（定数は10名以内）。新型コロナの影響が長期化していることから毎年2回実施している意見交換会は、12月はハイブリッド形式、3月はオンライン形式により実施した。コロナ禍でも市民との対話による評価活動を維持することができた。</li> <li>文化庁の文化芸術振興費補助金「文化施設の感染拡大予防・活動支援環境整備事業」を活用して、館内トイレ洗面台に設置してある給水栓22台をセンサー式自動水栓に改修し、利用者の安心・安全を確保するとともに、ユニバーサルデザイン仕様に更新することができた。</li> <li>このほか、手指用消毒液などの感染症対策用消耗品の購入や、人体表面温度測定サーマルカメラ1台をエントランスホールに設置するなど、総額約260万円の補助金を活用して、館内の感染予防対策を行った。</li> <li>株式会社三菱UFJ銀行田無支店から社会課題解決に資する社会貢献活動として、前年度の手指用消毒液などの感染症対策用消耗品の寄贈に続き、今年度も50万円の寄附金を受領することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の市民モニター改選では、前年度に引き続き圏域5市のうち東村山市からの市民モニターが選任できていないことに加えて、新規モニターを増やすことができなかった。これからも若い世代を含めて多くの市民から意見を聴取できるよう運営に努めていきたい。</li> <li>未利用者を含めた圏域市民の一般的な科学館への認識・評価については、来年度に調査実施する予定である。</li> <li>新型コロナウイルス感染症の影響の長期化により指定管理者利用料金還元金の実績が2年連続ゼロとなり、施設設置者の財政運営が厳しさを増している状況ではあるが、今後も外部資金などの新たな財源確保を検討しながら現有施設の老朽化対策と合わせて、ユニバーサルデザイン化など利用者サービスの向上につながる環境整備に努めていきたい。</li> <li>現有施設の老朽化が進行し、令和6年度には築30年を経過することより、これからも安全性や快適性を確保できるよう来年度は施設の中長期保全計画の策定を行う予定である。</li> </ul>	A	A	<p><b>今年度事業の成果に対する評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍での財政運営で大変な努力が見られる。</li> <li>文化庁や地域企業のサポートを受けるといった経営努力や、より幅広い人々にアクセスをするための事業・制度の構築や、地道な感染症予防対策を行ってきたことは評価できる。</li> <li>市民モニター活動は、着実に実施されており、評価に値する。</li> </ul> <p><b>今後の課題・今後への期待</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化庁の文化芸術振興費補助金により施設・設備の改修、ユニバーサルデザイン仕様への更新、感染予防対策ができたことは、地域の重要な施設との認識があつてこそ実現できたことで、今後も圏域企業・各種団体や行政との連携は重要視していただきたい。</li> <li>市民モニターのあり方や未利用者の調査など今後に期待したい。</li> <li>館が科学館事業を行うことと同時に、行政と密接な関係を保ちながら、館外部に存在する圏域の企業や教育機関・団体、そしてそれらを構成する個々人との連携が、今後ますます組合にとって重要になると認識する。そのため、今後、連携を行う外部の組織・人による、館の活動に対する評価システムを構築し、内だけでなく外からの活動評価をより強化する必要がある。</li> </ul>

1. 長期的な事業目標ならびに事業方針

第2次基本計画	
使命	活動理念
多摩六都科学館は、地域の皆さんをはじめとする様々な方々とともに、誰もが科学を楽しみ、自分たちの世界をもっと知りたいと思える <b>多様な「学びの場」をつくり</b> あげていきます。 そして、多摩六都科学館は、活動の幅を広げ、皆さんをつなぎ、「 <b>地域づくり</b> 」に貢献することをめざします。	科学でつながるともにつくりあげる 多摩六都科学館

指定管理者・事業計画
令和2（2020）年度～令和5（2023）年度 第3期中期における事業の基本方針
多摩六都科学館第2次基本計画の使命『多様な学びの場』の創出と『地域づくり』をめざし、活動の基本方針を引き続き「D.O!サイエンス」とします。利用者が主体的・対話的で深い学びをめざし、スタッフとともに「科学する」を実践できる場と機会の創出をめざします。「市民の科学館＝Science Center of the people」を到達点とし、事業展開します。

2. 重点的な業績指標（KPI）

注 赤字：新規の指標あるいは「ローリングプラン2016」で改訂された箇所 セル黄色：市民モニター関連 セル緑色：R2より追加したKPI

青字：実状に沿うよう指標ならびに測定方法等を見直したものと 評価結果欄の斜め線：調査未あるいは、定性評価として実施

3. 評価結果・実績値（定量評価・定性評価）

評価軸	重点的な業績指標（Key Performance Indicators, KPI）	定量	検証方法	中期目標・目標値	第2期		第3期・今中期					中期事業評価	
					H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R1	H28
利用状況・経営状況	●利用者数	*	A	年間21.5万人をキープ	243,775人	244,436人	225,867人	89,454人	139,593人				
	●利用料金収入（事業収支）	*	A	最低1億円を目標とする	134,628千円	133,097千円	122,910千円	48,307千円	82,202千円				
	●利用料金比率（利用料金収入/全収入）	*	A	25%以上	32.8%	32.5%	30.2%	14.6%	21.8%				
	●外部委託費比率（外部委託費合計/全支出）	*	A	20%以下	14.6%	14.5%	17.0%	16.7%	16.5%				
	●利用者当たり管理コスト（全支出/利用者数）	*	A	2,000円以下	1,704円	1,709円	1,799円	4,118円	2,653円				
	●利用者当たり組合負担コスト（指定管理料/利用者数）	*	A	1,500円以下	1,117円	1,114円	1,217円	3,659円	1,986円				
直接的な事業効果	●利用者・参加者の満足度（総合的な満足度）	*	C	80%以上が満足	89.4%	88.6%	89.9%	87.0%	94.1%				
	●「科学の楽しさを実感した」と答えた人の割合	*	C	調査内容ならびに調査方法要検討									
	●科学への興味喚起度（利用者調査・定量）	*	C	80%以上が満足（平成27年度から）	89.3%	89.3%	88.7%	99.2%	95.2%				
	●科学への興味喚起度（市民モニターが検証・定性）		D		A+	A+	A+	A+	A+				
	●幅広い年齢層からの支持（削除）	*	C										
	●リピーターの比率の維持	*	C	★60～70%を維持	58.4%	65.0%	65.5%	65.9%	64.0%				
	●ファミリー層の新規利用者の増員をめざした取り組み		B	検討/実施	実施	実施	実施	評価不能	評価不能				
	●幅広い年齢層に向けた事業への取り組み (参考値：年齢別プログラムや事業の取組件数)	小学校低学年以下向け		B	検討/実施	実施	実施	実施	実施	実施			
		小学校高学年～中学生向け		A	取組姿勢を検証する指標（検討/実施）であるが、具体的な活動結果も参考値として記載。各年齢層に向けてバランスよく実施することが好ましい。	延522日 73,261人	延316日 57,011人	延256日 55,466人	延91日 4,474人	延137日 9,703人			
		中学生～大人向け		A		延89日 8,567人 24回 1,244人	延115日 10,669人 26回 1,466人	延85日 11,412人 39回 1,963人	延28日 1,257人 15回 542人	延56日 3,356人 18回 789人			
	●「多摩地域の価値を見つけた」と答えた人の割合	*	C	調査内容ならびに調査方法要検討									
	●多摩地域の価値を見出せる事業の実施		D		A+	A	A	A	A+				
	●ソーシャル・インクルージョンに基づく活動への取り組み（新規）		B		実施	実施	実施	実施	実施				
	●ソーシャル・インクルージョンに基づく活動への取り組み（新規）		D		B	A	A	A	A+				
	●圏域五市小学校へのアウトリーチ活動	*	A	各市1校ずつ5校実施	10校	9校	9校	11校	9校				
	●圏域五市中学校へのアウトリーチ活動	*	A	5市で1校は実施	1校	1校	1校	1校	—				
	●その他の機関などへのアウトリーチ活動		B	検討/実施	実施	実施	実施	実施	実施				
	●ボランティアによるアウトリーチ活動		B	検討/実施	実施	実施	実施	評価不能	評価不能				
	●ボランティアの科学館事業への支援延人数	*	A	3,000人以上 10人以上/1日（開館日数300日）	5,131人 17人/1日	5,033人 17人/1日	4,233人 16人/1日（開館269日）			評価不能	評価不能		
	●ボランティア主催事業回数	*	A	12回以上（1回/月）以上	50回以上	50回以上	50回以上			評価不能	評価不能		
●ボランティアによるプログラム開発		B	検討/実施	実施	実施	実施			評価不能	評価不能			
●市民モニター制度の実施		B	検討/実施	実施	実施	実施			実施	実施			
●「誰もが科学を楽しめる科学館」としての評価（定性）（削除）		D											

注★：令和4年6月7日、組合・指定管理者間で協議の上、目標値を「50～60%を維持」から「60～70%を維持」に変更。入館者数の増減があっても実測値が65%を保持し安定していることから目標値を60～70%に改める。

2. 重点的な業績指標 (KPI)

注 赤字：新規の指標あるいは「ローリングプラン2016」で改訂された箇所 セル黄色：市民モニター関連  
 評価結果欄の斜め線：調査未あるいは定性評価として実施

3. 評価結果・実績値 (定量評価・定性評価)

評価軸	重点的な業績指標 (Key Performance Indicators, KPI)	定量	検証方法	中期目標・目標値	第2期		第3期・今中期					中期事業評価		
					H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R1	H28	
					実測値	実測値	実測値	実測値	実測値	実測値	実測値	実測値	参考値	
長期的な 成果 中期的指標	■ 圏域市民の科学館の認知度	*	E										91.9%	
	■ 圏域市民の科学館の利用度 (全体・未認知者も含む)	*	E										67.2%	
	■ 圏域市民の利用時の満足度 (満足+どちらかと言えば満足の割合)	*	E										92.6%	
	■ 「誰もが科学を楽しめる科学館」としての評価 (定量)	*	E										5.49	
	■ 「誰もが科学を楽しめる科学館」としての評価 (定性) (削除)		D										A	
	■ 圏域市民の科学リテラシーの向上 (科学への興味喚起度) (定量) 指標：生活の中で役立つ科学の知識が身につく、世界の課題を科学的な観点から考えることができる科学館	*	E											4.99
	■ 圏域市民の科学リテラシーの向上 (科学への興味喚起度) (定性)		F				A					A	A	
	■ 科学の担い手の育成		F				A+					A+	A+	
	■ 「科学館での体験を通して、考え方や生き方に変化が生まれたか」そのような事業を行っているか (定性)		F				A+					A+	A+	
	■ 「多くの圏域市民が参加し盛り上げていける科学館」としての評価 (定量)	*	E											4.17
	■ 「多くの圏域市民が参加し盛り上げていける科学館」としての評価 (定性)		F				A					A	A	
	■ 「自分の科学館/地域の科学館として価値ある存在」としての評価指標：ここ3年間の活動は、ご自分にとって、家族にとって、地域にとって価値あるものだったと思われますか。	*	E											5.8
	■ 「市民から愛される科学館」としての評価 (追加)	*	E											
	■ 「市民から愛される科学館」としての評価 (追加)		F				A					A		
	■ 「多摩六都科学館の活動が圏域市民にとって、地域にとって価値あるものであった」という観点からの評価		F				A					A	A+	
■ 「地域の振興に寄与できる科学館」としての評価(定量)	*	E											4.9	
■ 「地域の振興に寄与できる科学館」としての評価(定性)		F				A					A	A		

平均値：4.94

4. 評価結果（定性評価）

中期	年度	自己評価			外部評価	
		今年度の取組結果・成果	課題・今後の取組方針	目標の達成状況	評定	総評（総合的な意見など）
第2期 H29 ~R1	H29	評価コメントは、令和元（2019）年度事業評価報告書参照。	令和元（2019）年度事業評価報告書参照。	A+	A+	評価コメントは、令和元（2019）年度事業評価報告書参照。
	H30	同上	同上	A+	A+	同上
	R1	同上	同上	A+	A+	同上
	中期	同上	同上	A+	A+	同上
第3期 R2~ R5	R2	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は新型コロナウイルスに翻弄された1年となった。6月に開館した後も、感染拡大防止が最優先課題であり、その中で何ができるのか、どうすればできるのかを常に考えながら運営することとなった。科学館事業でも記載しているが、今だからこそできるオンラインでの配信コンテンツの拡張を進めており、オンラインでの参加者の満足度は上がってきている。</li> <li>コロナ禍ではあるが、多くの利用者は実体験も強く求めており、感染防止対策を施しての実験や工作なども実施しており、ほとんどの事前申し込みでは30倍を超える応募者がある状況となっている。</li> <li>前年度から開始しているソーシャル・インクルージョンに対する取り組みでは明らかな成果も上がってきており、第2次基本計画の最終年となる令和5年度に向けての方向性も整っている。</li> <li>新型コロナウイルスの影響は大きく、地域を意識した活動は地域拠点事業②でも記載しているが進展しなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も当面は今年度と同様の状況が継続すると考えられる。今後重視することとしては、オンラインでの配信コンテンツの拡張および高品質化で、コロナ禍が収まった後も利用者が参加する価値を認識できるレベルまで上げて、館の特徴のひとつとして押し上げるとともに、オンライン配信による事業の評定方法や、科学館の継続的・安定的な運営につなげられるよう当該事業による収益確保の可能性について調査研究を進めていく計画である。</li> <li>今後の取り組みとしては、コロナ禍の収束後を見据え、科学館事業・地域拠点事業・マーケティング・財政計画の各事業を進めることが重要課題と認識している。</li> </ul>	A	A	<p><b>今年度事業の成果に対する評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で活動が制限される中にありながら、                             <ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン配信コンテンツの拡張を行い、参加者の満足度が上がってきていること</li> <li>感染防止対策を施した上での実験や工作での30倍を超える応募者のある状況であること</li> <li>ソーシャル・インクルージョンの関連事業の成果があがっていること</li> </ul> </li> <li>指定管理者、組合とも厳しい状況の中で最大限努力していることを評価する。</li> </ul> <p><b>今後の課題・今後への期待</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オンラインでの参加は、来館せずに多摩六都科学館の内容を知ることができることにつながる。これは、未来館者が館との新たなつながりを作る良い方策だと考えられるので、今後も期待したい。</li> <li>コロナ収束後に、ただ以前に戻るのではなくコロナ禍に獲得した新たな手法や知見も活かして、各事業を展開することを期待したい。</li> <li>多摩六都科学館のステークスホルダーの中でも、「若い世代」の重要性を再確認し、その層に対してモニタリングする必要性を強く感じている。</li> </ul>
	R3	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止対応を最優先課題としての運営を余儀なくされた一年となったが、政府や東京都の各種制限の緩和もあり、市民の新型コロナウイルスに対する意識が変わってきている。</li> <li>館としてもプラネタリウム定員や館内滞留者数制限を緩和し、利用者も増えてきている分、館内で開催している体験型イベントに対する参加要求が強くなってきている。参加者定員を増やすことはしているが、要求に対し十分には応えきれないのが現状である。</li> <li>文化庁の助成事業として推進してきたソーシャル・インクルージョンに対する取り組みは、大きな成果を上げることができ、また同様の取り組みをしている組織・団体・個人とのつながりも生まれている。今後は文化庁の助成はなくなるが、切れずに継続していきたい。</li> <li>科学館事業の体験型プログラムや地域づくりの交流事業は、コロナ禍のため十分に行えていたとは言えないが、リモートでも実施できる方法で開催するなど、活動が途切れないよう努め、成果をあげている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後は新型コロナウイルス感染の収束を念頭に入れた運営が必要と考えている。過去2年間のコロナ禍で当館に限らず、世の中全体がオンライン化や在宅勤務と言ったリモートが広まっている状況だが、今後どのように変化していくかを見極める必要がある。</li> <li>科学館来館者の多くは実体験を期待しており、その要求に応えるべく館内でのイベントを増やしていく必要がある。さらにこの2年間で実施してきたオンラインでの発信も継続するとともに、限られたリソース（スタッフなど）では実施体制は厳しいと思われ、今後どう対応して行くかは慎重に検討する必要がある。</li> <li>また、オンラインでのイベントを継続するとなると、前年度も記載しているが、収益の確保と言った課題も検討する必要がある。</li> </ul>	A	A	<p><b>今年度事業の成果に対する評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で活動が制限される中で、オンラインでの活動、バーチャル展示、ソーシャル・インクルージョンなど評価できる活動を推進した。</li> <li>オンライン化や在宅勤務が広まった中で、入館者数が改善傾向になったことは評価できる。</li> <li>平成24（2012）年に乃村工藝社が指定管理者となって10年が経過し、科学館事業の拡充、ボランティアの活躍、地域連携の構築と、現代を生きる科学館に求められる役割を認識し、組合と指定管理者が協力しながら博物館活動を行ったことで成し遂げられた成果を評価したい。</li> <li>2020年に起こったコロナ禍を、活動を見直し、発展させる一つの契機としたことも評価できる。</li> </ul> <p><b>今後の課題・今後への期待</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で習得したオンライン技術を発展させ、未利用者に科学館の魅力を伝える方策を立てることや、圏域の在住外国人約1.6万人へのアクセスをどのように行うかの検討が望まれる。</li> <li>館内で利用者に接する乃村工藝社の方々やボランティアの方々から韓国語・中国語・英語で説明できると良いと考える。このための研修会開催などを検討していただきたい。</li> <li>引き続き、コロナ収束後に備えるとともに、コロナ禍における体験型イベントへの参加要求にこたえる工夫を続けてほしい。</li> <li>今後は、さらに地域連携の開発と発展が期待されるところであるが、それを行う館内および館外の《人》をどのように大切にマネジメントするかが肝要だと思われる。そのためには、もう一歩踏み込んだ評価システムを今後構築する必要があると指摘しておきたい。</li> </ul>

本報告書2～10頁の「2. 中期の重点戦略ならびに業績指標」一覧内の「事業概要」列に記載されている番号は、「令和3年度 指定管理者事業報告書」内で、その指標に該当する事業項目を指す。  
 詳細は「令和3年度 指定管理者事業報告書」を参照。

多摩六都科学館事業一覧

「令和3年度 指定管理者事業報告書」 目次		該当頁
<b>I</b>	<b>概要</b>	<b>1</b>
	1 指定管理者	1
	2 施設概要	3
	3 施設の利用状況	6
<b>II</b>	<b>指定管理業務事業報告</b>	<b>10</b>
	1 科学館事業	10
	1-1 調査研究・収集保存活動	10
	1-2 展示活動	13
	1-3 天文映像活動	31
	1-4 参加体験型学習活動	36
	1-5 学校連携・支援	40
	1-6 人材育成・研修活動	45
	1-7 研究機関、科学・教育関連団体との連携活動	50
	2 地域拠点事業	55
	2-1 地域の交流拠点活動	55
	2-2 地域資源創造・魅力発信活動	61
	3 マーケティング	64
	3-1 顧客開発	64
	3-2 市場調査	65
	3-3 広報・PR活動	66
	4 運営管理	69
	4-1 チケット発券・利用案内	69
	4-2 安全管理業務	69
	4-3 設備管理業務	70
<b>III</b>	<b>収支報告</b>	<b>75</b>
	資料	78
	利用者アンケート集計結果	95

多摩六都科学館組合事業評価委員会条例

平成16年3月3日  
条例第2号

(設置)

第1条 多摩六都科学館の事業評価を行うため、多摩六都科学館組合事業評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、管理者の諮問に応じ、次の事項について調査し、検討し、及び答申する。

- (1) 主要な事業成果の検証について
- (2) その他管理者が必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、学識経験を有する者のうちから、管理者が委嘱する委員5人以内で組織する。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、2年以内とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、委員会の会務を総理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(招集等)

第6条 委員会は、委員長が招集する。

2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 委員会に関する庶務は、多摩六都科学館組合事務局において処理する。

(補則)

第9条 この条例に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この条例は、平成16年4月1日から施行する。

多摩六都科学館組合事業評価委員会委員名簿（第8期）

多摩六都科学館組合事業評価委員会条例（平成16年条例第2号）第3条の規定に基づき、5人の委員に委嘱している。

役 職	氏 名	所 属
委員長	柴田 徳思	東京大学 名誉教授
副委員長	桧森 隆一	北陸大学 副学長・教授
委員	小谷 泰弘	東久留米市在住市民（科学館ボランティア会役員）
委員	坂本 和弘	前葛西臨海水族園 副園長兼飼育展示課長
委員	杉浦 幸子	武蔵野美術大学 芸術文化学科 教授

**多摩六都科学館組合市民モニター設置要綱**

平成 27 年6月1日  
決定

(目的)

第1 多摩六都科学館組合(以下「組合」という。)における事業評価活動を推進し、市民の理解と協力を得てニーズに適った効用の高い科学館運営を図ることを目的として、市民モニターを置く。

(職務)

第2 市民モニターは、次の職務を行う。

- (1)組合の依頼する調査等に協力し、意見を述べること。
- (2)市民モニター会議、研修会等に参加すること。
- (3)その他組合の事業評価活動と広聴活動推進に関して必要な事項に協力すること。

(定数及び委嘱)

第3 市民モニターの定数は、10名以内とする。

2 選任は、原則として公募により、年齢、地域等を考慮して、組合管理者が委嘱する。

(資格要件)

第4 市民モニターは、次の要件を満たす者とする。

- (1)満 20 歳以上の組合構成市の市民であること。
- (2)組合の公職者及び組合構成市の職員でないこと。

(委嘱期間)

第5 市民モニターの委嘱期間は、1年以内とする。

(委嘱の取消し)

第6 市民モニターが、次の各号の一に該当するときは、委嘱を取り消すものとする。

- (1)第4に定める資格要件を失ったとき。
- (2)辞退を申し出たとき。
- (3)職務の遂行ができなくなったとき。
- (4)その他組合管理者が取り消す必要があると認めるとき。

(報償費)

第7 市民モニターに対しては、予算の範囲内で謝礼を支払うことができる。

(庶務)

第8 市民モニターに関する事務は、組合管理課が行う。

2 管理課長は、必要に応じて、多摩六都科学館指定管理者と次に掲げる事項を協議する。

- (1)市民モニター会議・調査の課題の決定。
- (2)その他本業務運営に関すること。

(委任)

第9 この要綱に定めるもののほか、必要な事項については組合管理者が別に定める。

附則

この要綱は、平成 27 年6月1日から施行する。

**市民モニターによる評価実施の目的**

多摩六都科学館組合は、市民モニターによる評価は、下記目的のために実施する。

- 事業結果や定量的な調査では測れない指標について、圏域市民の立場から定性的に評価を行う。
- 定性的な実績指標について、中期的な観点から、年度毎の評価を行う。
- 多様な立場のステークホルダーからの支援を継続していくために、変化していくニーズや価値観を把握する必要がある。そこで、市民モニターを通して圏域市民の「支援開発志向」を定点で調査できる手段としても活用し、支援体制や協力体制のあり方やニーズの把握に役立つ。

**多摩六都科学館組合事業評価 市民モニター名簿**

市民モニターの人選は、多摩六都科学館のステークホルダーのうち、中長期的な観点から科学館事業を定性評価できる圏域市民9名の方々に依頼を行った。

No.	住所・所在地	性別	ステークホルダー種別
1	小平市在住	女性	市民（友の会・公募）
2	小平市在住	女性	市民（友の会・公募）
3	小平市在住	女性	市民
4	清瀬市在住	男性	市民（友の会・公募）
5	東久留米市在住	女性	事業協力者
6	東久留米市在住	男性	市民活動グループ
7	東久留米市在住	女性	市民活動グループ
8	西東京市在住	女性	市民